

# 吉田町における防潮堤利活用計画

地域特性をもつ賑わいの公共空間の創出

静岡文化芸術大学大学院  
デザイン研究科 デザイン専攻  
寒竹伸一研究室

1832010 原空也

## 目次

<b>第1章 序論</b>	2
1-1. 研究背景	
1-2. 研究目的	
1-3. 本論の構成	
1-4. 研究対象	
<b>第2章 研究対象の調査</b>	4
2-1. 現況調査	
2-1-1. 吉田町の概要	
2-1-2. 吉田町の変遷	
2-1-3. 吉田町の気象調査	
2-2. 用途特性調査	
2-2-1. 土地利用比較調査	
2-2-2. 公園比較調査	
2-2-3. 漁港比較調査	
2-2-4. 避難タワー分布比較調査	
2-2-5. 防潮堤比較調査	
2-3. 景観特性調査	
2-3-1. 吉田町の景観要素調査	
2-3-2. 駿河湾景観特性	
2-3-3. 大井川景観特性	
2-3-4. 俯瞰景観特性	
<b>第3章 事例調査</b>	21
3-1. 津波復興祈念公園事例	
3-1-2. 岩手県釜石市：震災メモリアルパーク・釜石鶴住居復興スタジアム	
3-1-2. 宮城県気仙沼市：復興祈念公園	
3-1-3. 岩手県陸前高田市：高田松原津波復興祈念公園	
3-2. 公園整備事例	
3-2-1. 遊具/オブジェ	
3-2-2. ベンチ/東屋	
3-2-3. 植栽	
3-2-4. イベント	
<b>第4章 提案</b>	32
4-1. 計画構想案	
4-1-1. 吉田町全体計画	
4-1-2. シーガーデンエリア景観計画	
4-2. シーガーデン各エリア計画	
4-2-1. 多目的広場計画	
4-2-2. 防潮堤計画	
4-2-3. 大井川エリア計画	
4-3. シーガーデンエリア全体模型写真	
4-4. シーガーデンエリアイメージ図	
参考文献	54

## 第 1 章 序論

## 1-1 研究背景

静岡県吉田町では2020年1月現在、沿岸部にて防潮堤整備事業が進んでいる。この計画に伴い2018年6月に設置された「吉田町シーガーデンシティ構想推進委員会」に静岡文化芸術大学大学院として参加した。委員会では、「吉田町シーガーデンシティ構想のグランドデザイン」学識な立場から検討した。

本研究では、この委員会によって決定された方針に準じた利活用計画を提案する。

## 1-2 研究目的

静岡県では多くの地域で津波対策として防潮堤整備事業が進められている。その一方で日常利用の想定が行われておらず、防潮堤の利活用が十分でない。吉田町を本研究の題材と取り扱うことで、津波の危険性のある沿岸部の地域のあり方を研究する。

## 1-3 本論の構成

第1章で研究の背景と目的を述べ、研究対象を設定する。第2章では研究対象に対する調査として吉田町の現況調査、用途特性調査、景観特性調査を行う。第3章では他地域の公園事例の調査を行う。第4章では調査を基に自然景観と地形の特性を活かした提案を行う。

## 1-4 研究対象

研究の対象は、吉田町川尻地区の防潮堤を含む周辺エリア（以下、シーガーデンエリア）とする。現在、整備事業が行われている防潮堤は高さ10m、幅8m、全長約2kmである。吉田漁港が位置する東側に最大幅82m、面積26,000m<sup>2</sup>の天端があり、多目的広場としてシーガーデンエリアの中心に位置づけて計画を行う。

本研究における「シーガーデン」という言葉は、吉田町「吉田町賑わい創出プラン～シーガーデンシティ構想～」で指定された下図の範囲の区域とする。





## 第 2 章 研究対象の調査

## 2-1. 現況調査

### 2-1-1 吉田町の概要

町人口は 29,636 人、世帯数 11,301 世帯である(H31 住民基本台帳)。農業は稲とレタス、内水面漁業はうなぎの養殖、海面漁業はしらすが盛んである。特に漁獲量の 97.8%がしらすであり吉田町の特産品である(H24 海面漁業生産統計調査)。

観光資源としては吉田町が一望できる「展望台小山城」、一面のチューリップ畑は広がる「県営吉田公園」などを有する。そのほか住吉海岸では、年末年始の「幸福を呼ぶ鳥居の設置」、吉田公園では、6 月に野外音楽イベントの「頂-ITADAKI-」、吉田漁港では、「吉田町港まつり花火大会」や初夏または初秋の「しらすマーケット」などシーガーデンを中心にイベントも年間を通して開催されている。

津波防災まちづくりの一貫として 1000 年に一度の大津波を想定して、高さ 11.5m の防潮堤と浸水想定地区に 15 基の津波避難タワーが整備されている。現在、吉田町が作成している「シーガーデンシティ構想」では防災公園である北オアシスパークを中心として、町内に点在している観光資源や防災施設に観光客等を誘導することを目的としている。





### 2-1-2 吉田町の変遷

室町時代初期に後小松天皇により吉田という地名が名付けられ成立したとされている。江戸時代では大井川の流路が定まっておらず、村では水害の被害に遭うことも多くあった。明治 9 年浜松県が廃止され、各村・新田が合併して第六組合を作り、明治 22 年、市町村制により第六組合を吉田村と改称する。以後、昭和 24 年に吉田村を吉田町と改称し、大井川と駿河湾に直接注いでいた八幡川河川の整備し、吉田漁港の整備が行われ、現在の防潮堤が川と湾に挟まれた地形が誕生した。大井川の体積物も昭和以降、大井川の水面に現れるようになる。一方、大井川付近の海岸エリアが減少している。資料 1 参照。

### 2-1-3 吉田町の気象調査

平均気温が 17.0℃、最高気温が 34.5℃(8 月)、最低気温が-2.6℃(1 月)。\*2019 年の吉田消防署の記録を参照。吉田町は駿河湾に面する市、町でも御前崎市に続いて年間平均風速 4.2m/s と風が強く、特に 11 月から 2 月にかけて冬の時期の風が強い。風向きは年中通して牧之原台地から吹き降ろす北西の風が多い。資料 2 参照。

資料1 吉田町の変遷

	土地利用簡略図 Scale=1:4000	土地の状況・変化点
1947年 (昭和21年)		<ul style="list-style-type: none"><li>・現在の吉田漁港の位置に地中沼地が見られる。</li><li>・川尻海岸の中心にも川が海につながっている。</li><li>・大井川に堆積物があまり見られない。</li></ul>
1959年 (昭和34年)		<ul style="list-style-type: none"><li>・漁港の整備が始まる。</li><li>・漁港周辺の防砂林の減少。</li><li>・農地のエリアが区切られ、道路の原型ができる。</li></ul>
1974年 (昭和49年)		<ul style="list-style-type: none"><li>・大幡川の整備により漁港とつながる。</li><li>・吉田公園のエリアの整備が始まる。</li><li>・住宅の範囲の増加。</li><li>・大井川の丸石が表面に多く見えるようになる。</li></ul>
2018年 (平成30年)		<ul style="list-style-type: none"><li>・公園の整備が整う。</li><li>・河川周辺に工場が増加。</li><li>・橋の整備により住吉地区と川尻地区のアクセスが容易になる。</li></ul>

◇大井川/大幡川/湯日川

- ・上流域のダムの整備により大井川の水量が減少し、堆積していた丸石が多く水面に表れる。
- ・昭和21年では大幡川が直接、海に流れていたが、現在は防潮堤に平行して吉田漁港に流れている。








◇住宅地/農地/防砂林

- ・上流域のダムの整備により大井川の水量が減少し、堆積していた丸石が多く水面に表れる。
- ・昭和21年では大幡川が直接、海に流れていたが、現在は防潮堤に平行して吉田漁港に流れている。

◇海岸線

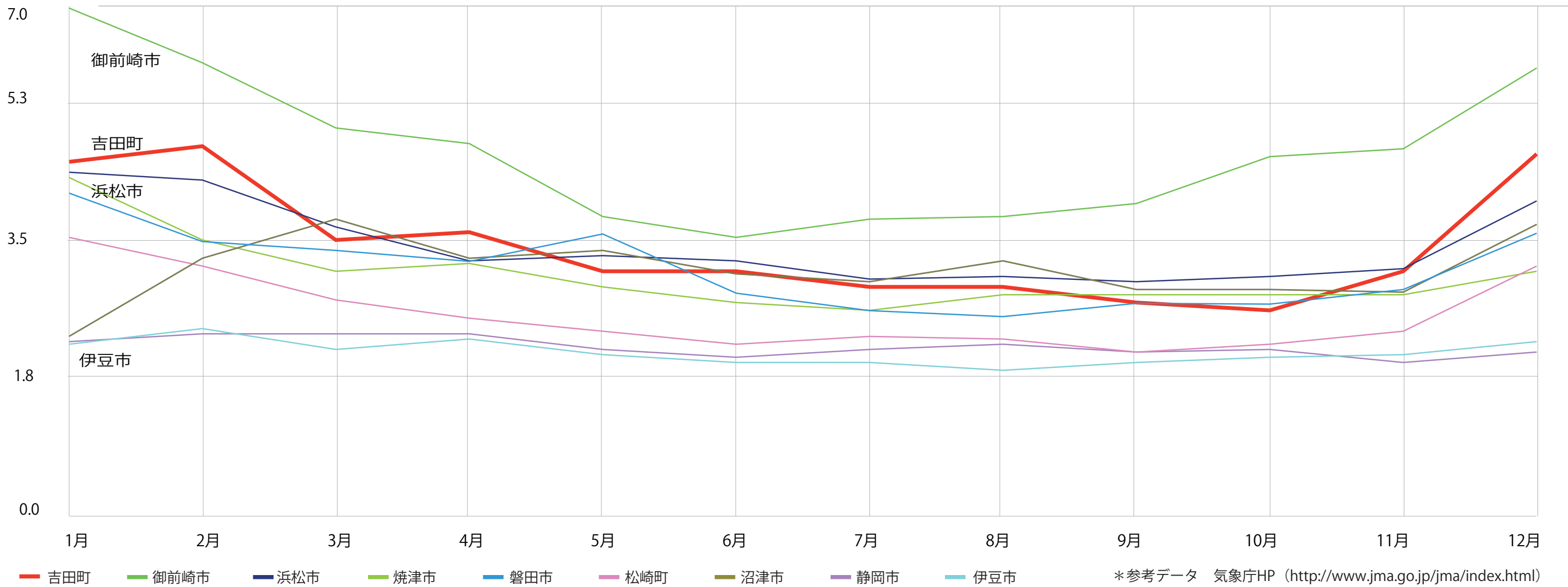
- ・現在の吉田公園のエリアが大井川の河口にかけてのびていた。
- ・防潮堤の整備により丸石を含む海岸エリアが減少する。

〔凡例〕

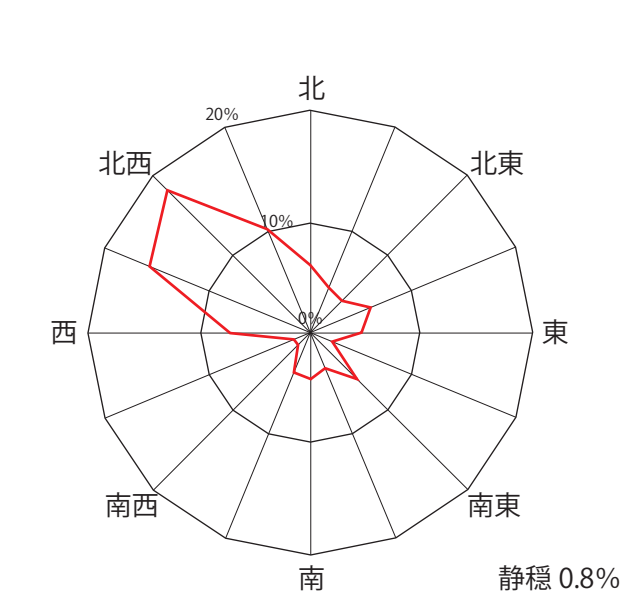
	河川・海		住宅地
	砂浜		工場
	防砂林		田んぼ・畑
	公園		

資料2 吉田町の気象調査

【2015年/2016年/2017年における月別平均風速】

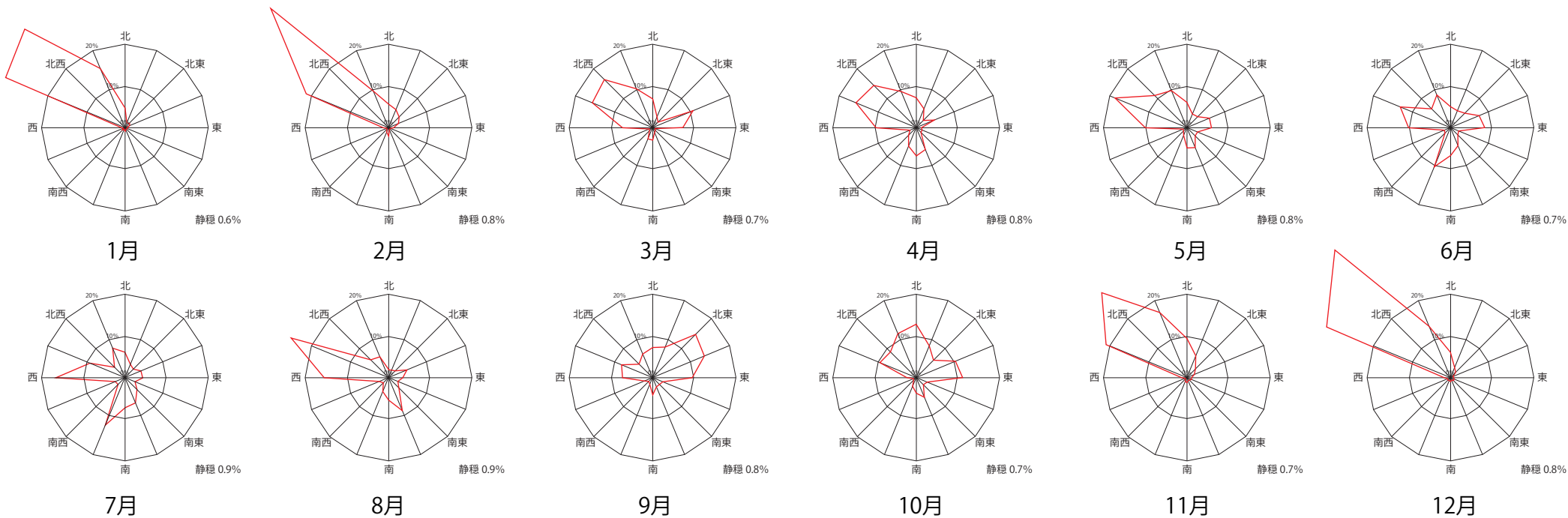


【吉田町2017年 年間風配図】



\*参考データ 吉田消防署

【吉田町2017年/2018年 月別風配図】



## 2-2. 用途特性調査

吉田町の海岸が接する牧之原市と焼津市の三都市で分析し比較することで吉田町の土地利用の特徴を明らかにしたい。そこで「資料 3」、「資料 4」、「資料 5」、「資料 6」を作成した。また、「資料 7」から吉田町の防潮堤に関しても他地域の防潮堤及び周辺状況から特徴を明らかにする。以下はその分析結果である。

### 2-2-1 土地利用比較調査

島田市付近から河口の吉田町と焼津市にかけて扇状地性の沖積面が広がっている。扇状地の地形であり市街地エリアは勾配がほとんどなく、低層な住宅地が大半を占めている。北西が牧ノ原台地の一部であり茶畑のある山が見られる。

吉田町は明治 40 頃に湯日川の河口に港が造られ、昭和から遠洋漁業が盛んであったことから、海岸沿いに住宅が多く分布している。一方、牧之原市は牧之原台地を中心とした茶畑などが主な産業として発達している。牧之原市は牧之原台地の地形に従った土地利用がされている「山の利用」に対し、川と海に従った「川と海岸の利用」であると言える。また、吉田町は焼津市に比べて、大井川の河川空間では工場や公園など積極的に利用していることが分かる。大井川を利用した空間計画と沿岸部の計画とを合わせることで、多目的エリアも積極的な利用が見込まれる。資料 3 参照。

### 2-2-2 公園比較調査

三都市の中でも県営吉田公が最も面積が大きくイベントなどでの利用率も高い。焼津市の南側はほとんど公園が見られないので 大井川から公園にかけての動線を計画することで人を呼び込めると推測する。牧之原市は起伏が激しく規模の大きい公園が見られないため、吉田町では平らな土地を活かした公園があると牧之原市からの利用者を見込める。吉田町の公園は子供遊具が多い。多目的エリアは学生や大人も楽しめる場を提供する。資料 4 参照。

### 2-2-3 漁港比較調査

漁港の形状は主に海岸線より海側に作られているものと、陸側に作られているものに分けられる。吉田漁港は海岸線より陸側に作られているため、町との関わりも深く、祭りも開催される。吉田漁港の形状は対岸エリアが存在するため、漁港側から見た「漁港エリア」と防潮堤側から見た「多目的エリア」からの互いの見え方を検討する必要がある。互いの関係性として高低差や変化が少なく住宅地の広がる漁港側に対して、防潮堤側の盛土され

た「丘」という特徴を活かす工夫が必要である。資料 5 参照。



#### **2-2-4 避難タワー分布比較調査**

避難タワーが海岸沿いに集中しており、両側の 2 市に比べて一基一基の密度が高い。牧之原市や吉田町とは違い、焼津市は様々なカラーを入れるなどの特色を出している。吉田町においても防潮堤とセットで吉田町の特性を生かした計画を行うことで平常時の利用や二重防災としての機能の向上を図ることができる。資料 6 参照。

#### **2-2-5 防潮堤比較調査**

静岡県 of 防潮堤は岩手県・宮城県・東京都に比べ高さが高いのが特徴である反面、吉田町は防潮堤の断面の距離が短く、津波が防潮堤を乗り越えてきた場合の多重防災や避難のための時間を稼ぐための機能が他に比べて弱い。防潮堤の背面の緑化を行うことで既存の松林と合わせて多重防災を考えることができる。資料 7 参照。



市別土地利用 簡易図	牧之原市	吉田町	焼津市
			
	<p>概要</p> <p>総人口…46,057人(平成30年) 人口増加率…-0.04%</p> <p>面積…116.69km<sup>2</sup> (東西…10.9km 南北…20.3 海岸…約15km)</p>	<p>概要</p> <p>総人口…29,691 人(平成29年) 人口増加率…-0.04%</p> <p>面積…20.73km<sup>2</sup> (東西…6.5km 南北…6.9km 海岸…約5km)</p>	<p>概要</p> <p>総人口…140,079人(平成30年) 人口増加率…-0.04%</p> <p>面積…70.31km<sup>2</sup> (東西…9.5km 南北…17.1km 海岸…約17.3km)</p>
特性	<ul style="list-style-type: none"><li>・吉田町に比べて農地・住宅の空間の利用がはっきりと分かれている。</li><li>→三方原台地・川などの地形に沿って分かれる</li><li>・三方原台地が存在しているため人が住む空間利用が限られている中、台地の平地部分を利用し、茶畑やスズキの工場などがある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・大井川の河川空間を積極的に利用→工場群・規模の大きい公園</li><li>・直線的な海岸である→海岸の景観の変化を与えていくとよい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・駅を中心に市街地の形成が成されている。</li><li>・海岸がS字であり変化が見られる</li></ul>

【凡例】

住宅

農地

茶畑

会社

スポーツ施設

遺跡・寺社

公共施設

教育施設

公園

店舗

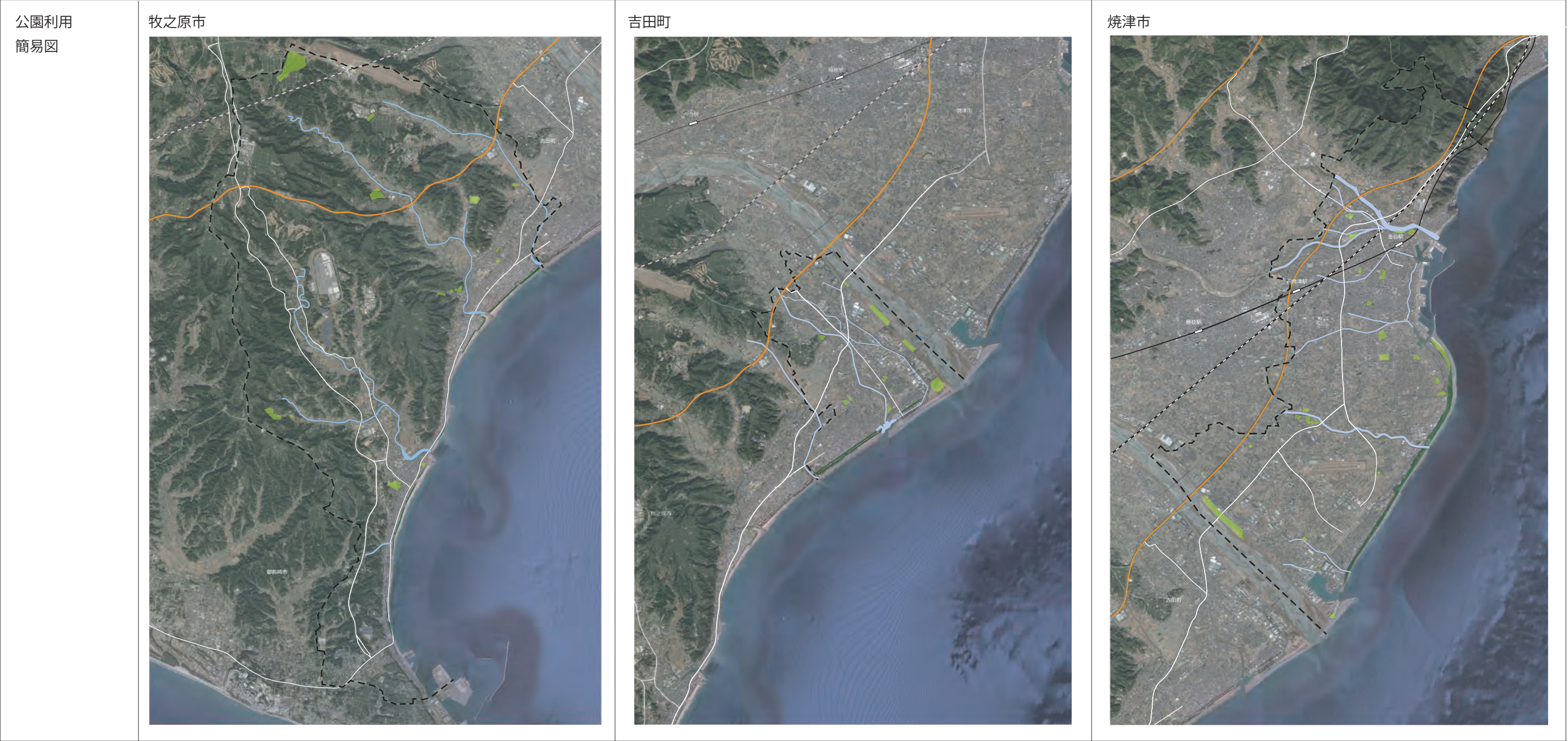
防砂林

学校

地図ベース：Google マップ

Scale = 1/120,000





吉田町  
公園一覧



公園

防砂林

地図ベース：Google マップ  
Scale = 1/120,000





■吉田町  
吉田漁港



■焼津市  
大井川港



■焼津市  
焼津港



■牧之原市  
坂井港



相良港



地頭港



【凡例】    ■ 漁業施設    ■ 緑地・公園



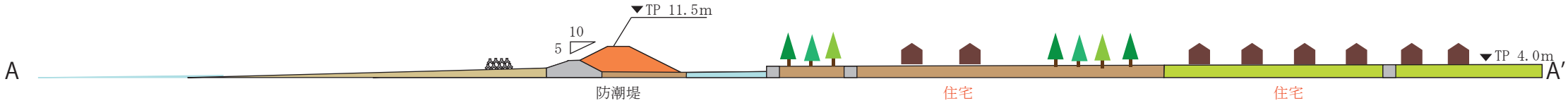
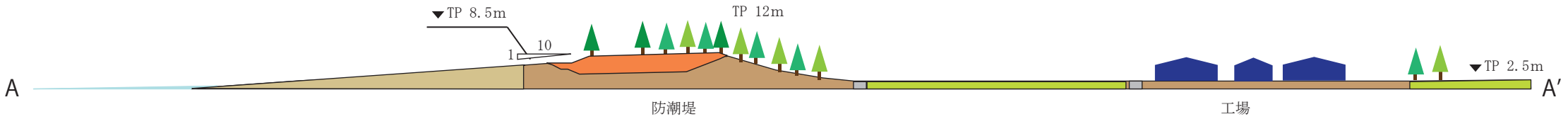
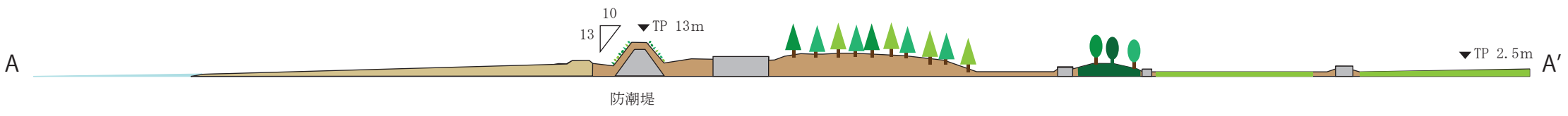
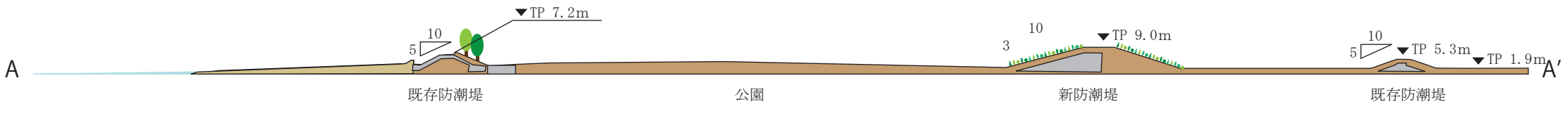
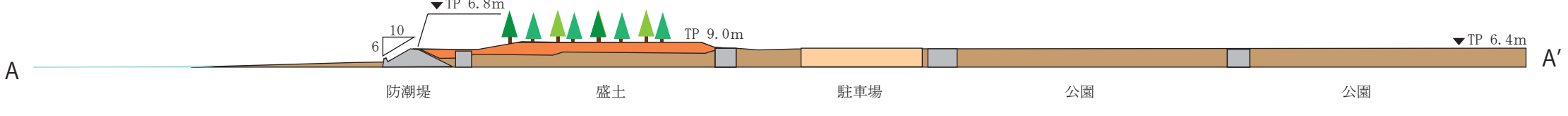
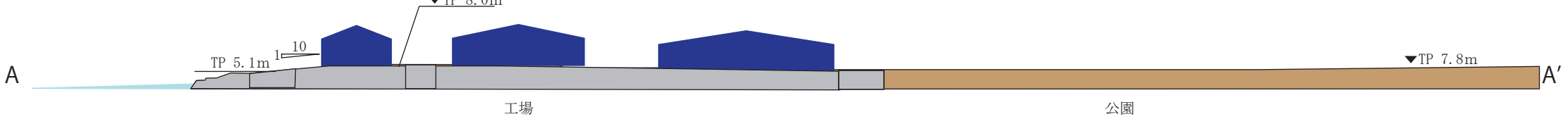





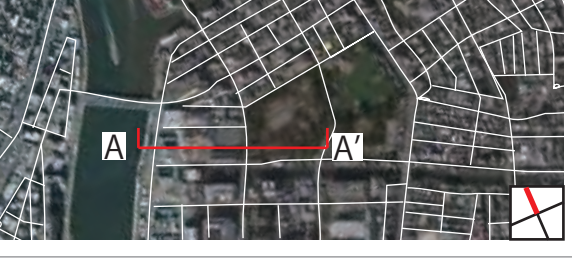


【凡例】

● … コミュニティ 防災センター	● … 避難タワー	● … 防災公園
● … 避難タワー	■ … 歩道橋型 避難タワー	

地図ベース：Google マップ  
Scale = 1/120,000



堤防断面図Scale = 1/20,00	堤防平面図Scale = 1/20,000
<div>静岡県吉田町(表面コンクリート型+表面緑化型)</div>  <div>静岡県袋井市(スーパー防潮堤)</div>  <div>静岡県浜松市馬郡町(表面緑化型)</div>  <div>岩手県岩沼市(表面コンクリート型、表面緑化型)</div>  <div>宮城県七ヶ浜町(スーパー防潮堤)</div>  <div>東京都江東区隅田川荒川地区(スーパー堤防)</div> 	     

### 2-3. 景観特性調査

吉田町周辺の地形的特徴から景観の特性を分析することで計画の要素として取り込みつつ反映させる。吉田町に接する駿河湾、大井川をそれぞれ全国の湾と河川で比較を行い、「資料 9」、「資料 10」を作成した。また、町外から吉田町への視点として「資料 11」を作成した。以下はその分析結果である。

#### 2-3-1 吉田町の景観要素調査

全長 6 kmの駿河湾に面する吉田町は駿河湾の形状から御前崎と伊豆半島が見られる。晴れた日には富士山も見ることができる遠景に優れた景観を有している。多目的広場は駿河湾、吉田漁港、湯日川に囲まれた位置にあり、現在は釣りやサーフィンの利用客が訪れる海とのつながりが確認できるエリアである。一方、吉田町は扇状地であり起伏が少なく町並みが広がっている。防潮堤の起伏は地形としても特徴的であり、防潮堤が一つの景観を持つことを考慮して計画していく。島田市付近から河口の吉田町と焼津市にかけて扇状地性の沖積面が広がっている。扇状地の地形であり市街地エリアは勾配がほとんどなく、低層な住宅地が大半を占めている。北西が牧ノ原台地の一部であり茶畑のある山が見られる。資料 8 参照。

#### 2-3-2 駿河湾景観特性

全国の湾を比較した際に湾形状を 3 パターンに分類できる。パターン B の駿河湾形状では対岸の起伏と広大な海のどちらも有した景観である。A タイプは湾口の距離が長くなりやすく、海が広く見渡すことができる。対岸エリアが見えにくい。B タイプは対岸の景観に加え、湾の海の景色も広く見渡すことができる。湾内の場所による景観の変化も起こりやすいと考えられる。C タイプは対岸エリアの景観を広く見渡すことができるため、起伏のある山並みを見渡すことができる。資料 9 参照。

#### 2-3-3 大井川景観特性

川尻海岸東側は一級河川大井川河口の右岸に位置する。大井川の河口付近は他の一級河川と比較して、1/250 の急勾配であり堆積した砂礫層が見られる。船が入ることができないほど浅いため、川の水面や音が感じやすい河川であると言える。大井川河口は県内でも有数の野鳥の生息地であり、年間を通して 80 種類以上が確認できる。特に冬には 50~60 種類 1000 羽前後の鳥が羽をやすめバードウォッチングの絶好のポイントとなる。静岡県 naturally 100 に選定された、鳥が多く集まる場所である。資料 10 参照。

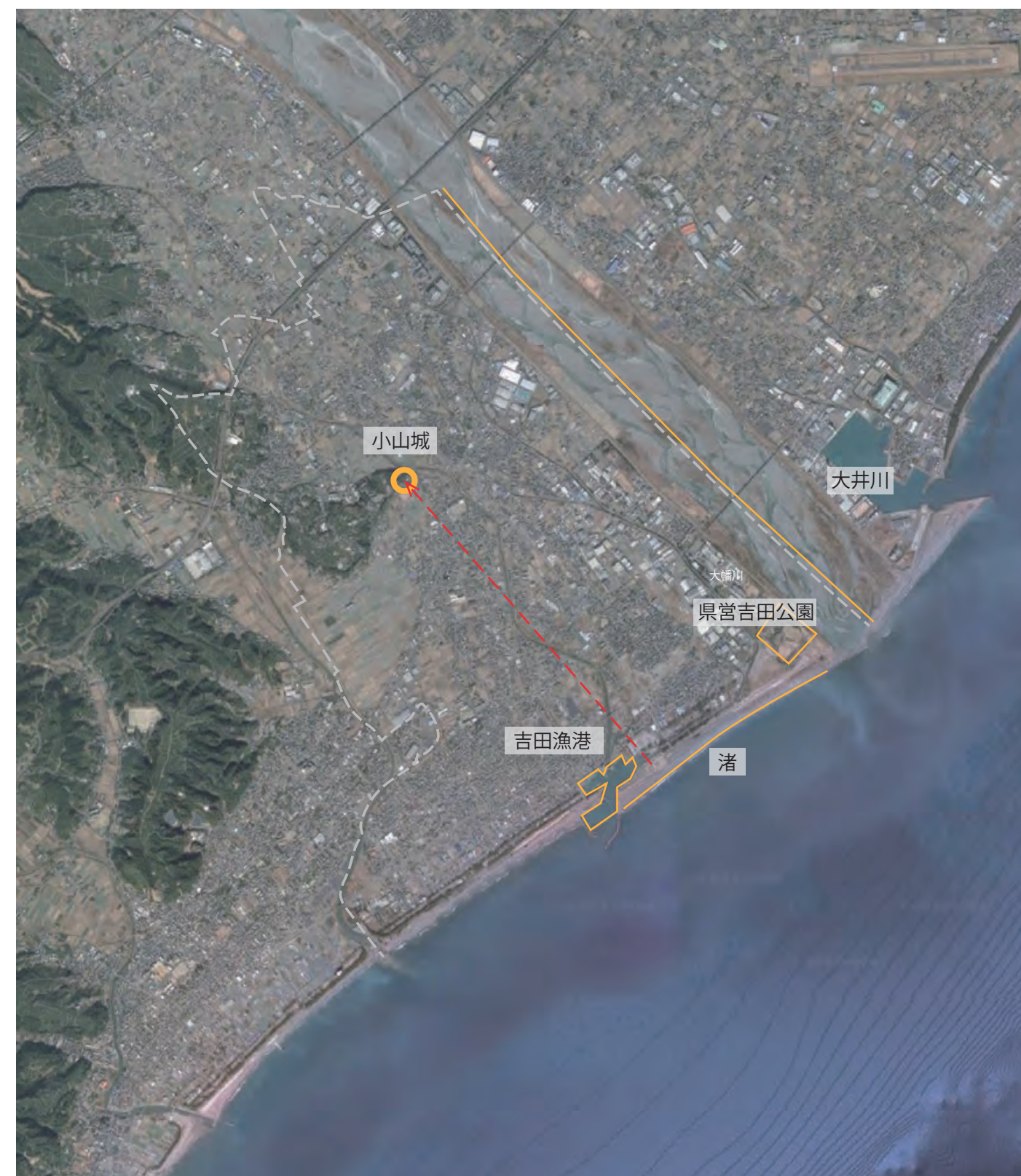
#### 2-3-4 俯瞰景観特性

飛行機が吉田町上空を通過するため、多目的エリアは上空からの景観で意識するポイントである。飛行機が上空 400mを飛行する際、地上面を形として認識できる大きさは 100m前後である。シーガーデン全体の各エリアを意識して計画することで飛行機利用者が吉田町を認識する。植栽や色彩の計画を取り入れることで住宅街の景観との変化が生まれ、多目的エリアを特徴づける。資料 11 参照。



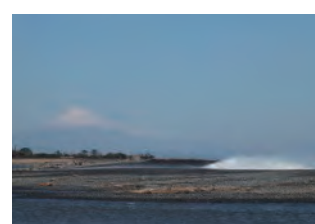


地図ベース：Google マップ  
Scale = 1/550,000



地図ベース：Google マップ  
Scale = 1/60,000

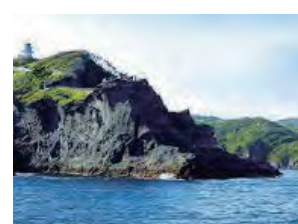
【遠景】



富士山

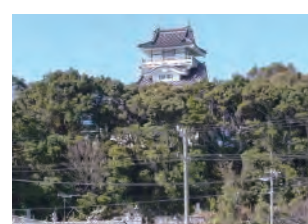


御前崎

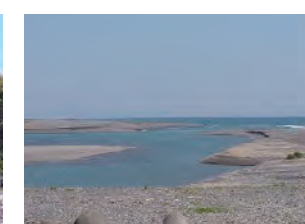


石廊崎

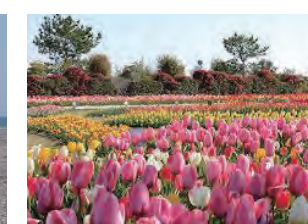
【近景】



小山城



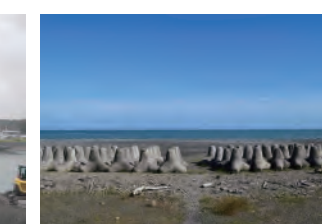
大井川



県営吉田公園



吉田漁港

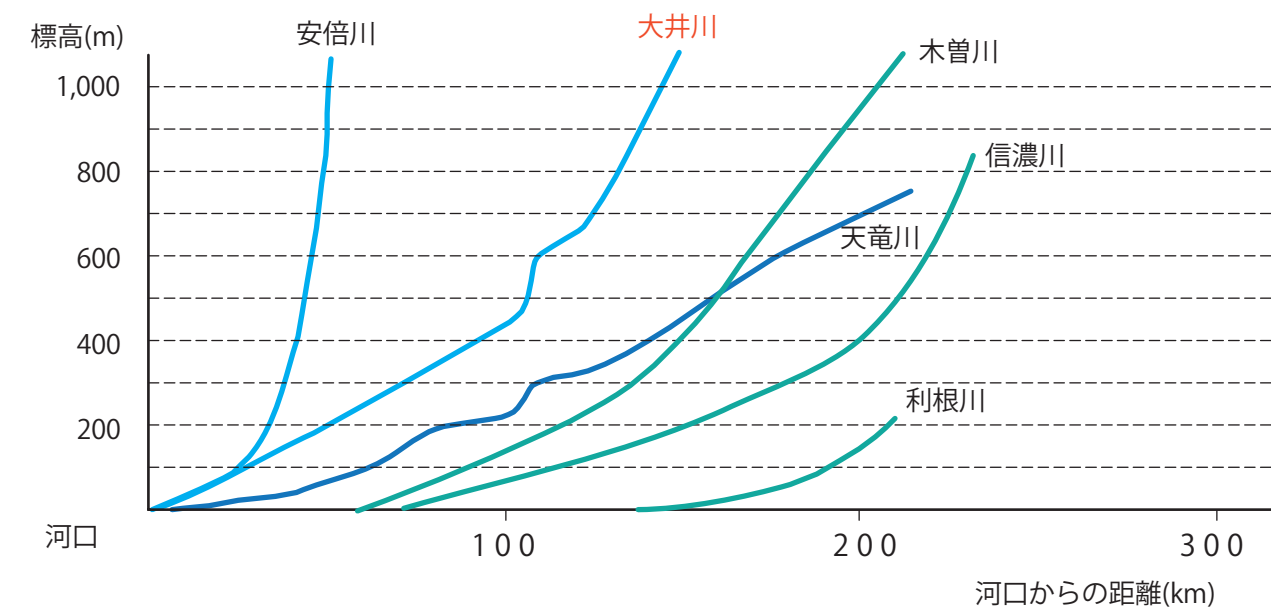


渚



資料10 全国河川比較

河床勾配の比較



大井川



安倍川



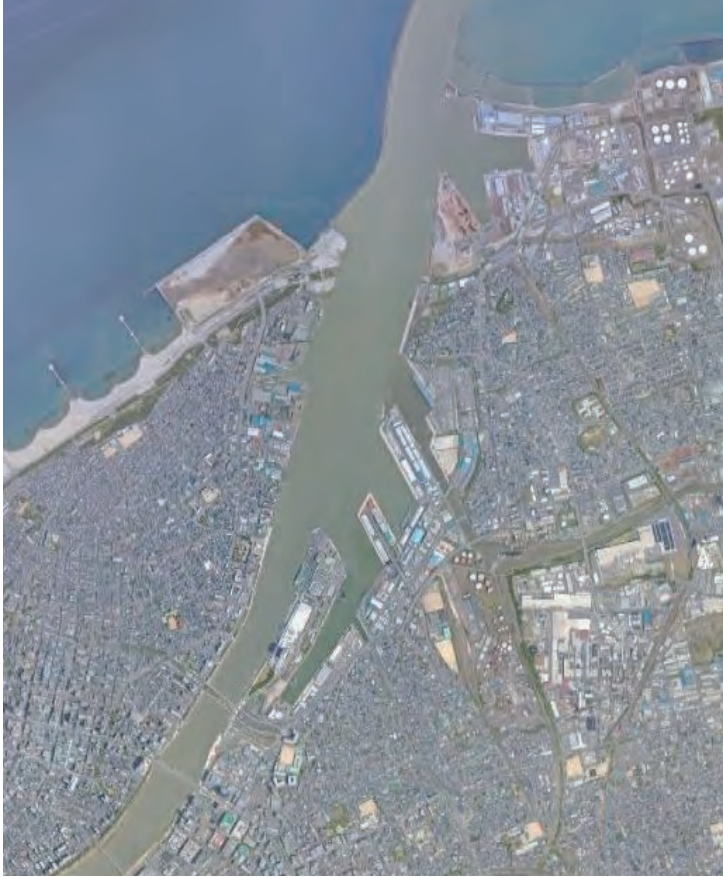
天竜川



木曽川



信濃川



利根川





### 第3章 事例調査



### 3. 津波復興祈念公園事例

津波と公園が連携した事例を東日本大震災の津波復興記念公園を中心に取り上げる。公園の基本計画から設計手法、整備施設などを参考する。以下はその調査結果から参考となる手法についてまとめた。

#### 3-1 岩手県釜石市：震災メモリアルパーク・釜石鵜住居復興スタジアム

大槌湾に注ぐ鵜住居川沿い地域交流拠点と都市公園形成に関する事例である。鵜住居川河口に面する小中学校の跡地に新たに釜石鵜住居復興スタジアムを整備し、高台にある中学校や児童館の間に地域交流拠点が位置している。海岸からスポーツエリア・地域交流エリア・学習エリアを連続させ鵜住居地区に賑わいを持たせている。資料 12 参照。

#### 3-2 宮城県気仙沼市：復興祈念公園

気仙沼市陣山の公園整備の事例である。陣山は被災した鹿折地域と気仙沼内湾の眺望を持ち、津波浸水のおそれがなく地域再興を認識できる位置にある。海の軸に対して祈りを表現したモニュメントや犠牲者の地域に向けた名前を刻む銘板が設置される。計画の検討方法では世界中からプロ・アマ問わずコンペを開催し、山から海への眺望の軸線を利用したアイデアが採用された。資料 13 参照。

#### 3-3 岩手県陸前高田市：高田松原津波復興祈念公園

広田湾に面する高田松原津波復興祈念公園の事例である。奇跡の一本松や古川沼を含む公園は震災伝承施設である道の駅を中心に計画が行われる。道の駅から広田湾方向と津波が遡上した気仙川上流部を結ぶ軸線が動線として強調されている。防潮堤に整備された海を望む場からは広田湾、氷上山、市街地を望むことができる。資料 14 参照。



資料12 津波復興祈念公園 岩手県釜石市：震災メモリアルパーク・釜石鵜住居復興スタジアム

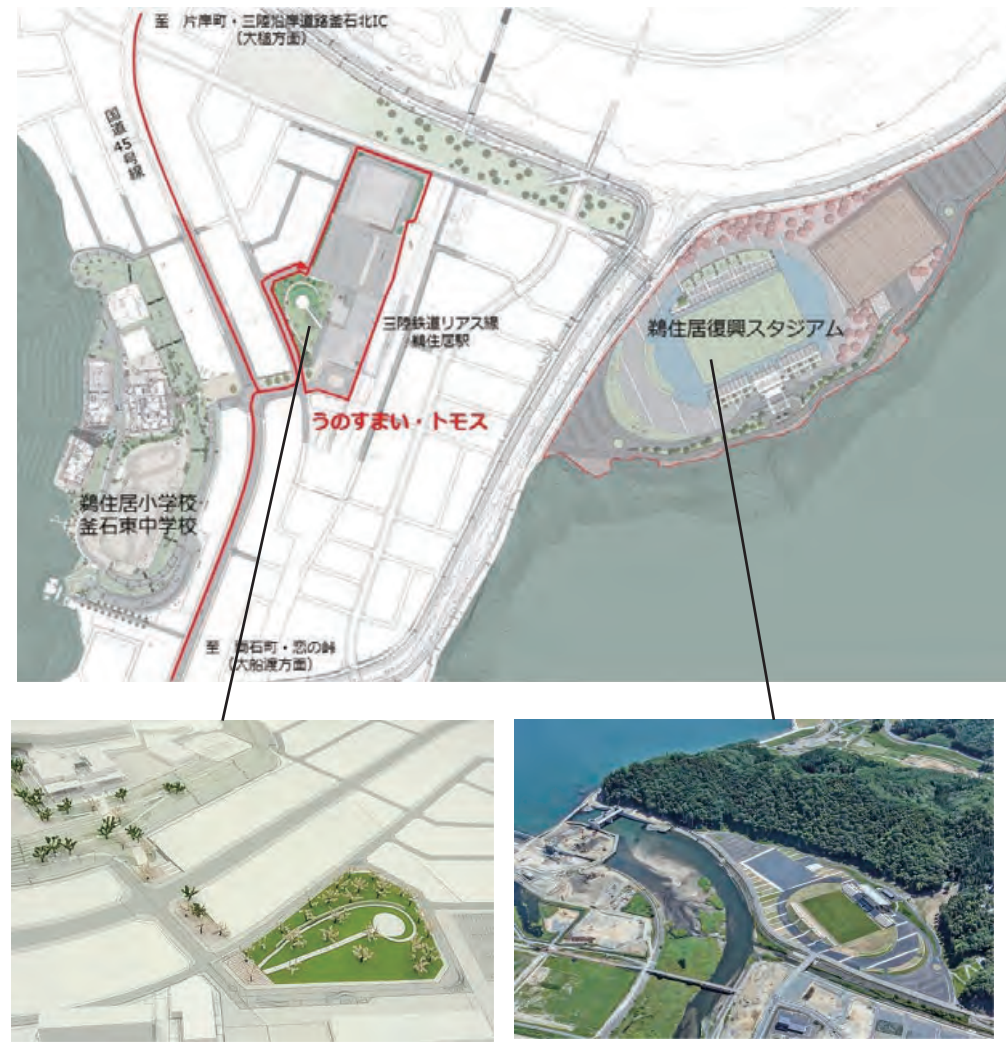
位置及び基本情報

犠牲者を悼む「釜石祈りのパーク」、防災学習拠点の「いのちをつなぐ未来館」、地元物産などを扱う「鵜の郷交流館」からなる震災メモリアルパーク「うのすまい・トモス」。



<施設概要>

- ・釜石鵜住居復興スタジアム
- ・うのすまい・トモス（いのちをつなぐ未来館／鵜の郷交流館／釜石祈りのパーク）



■釜石鵜住居復興スタジアム

釜石市は、2019 年にアジアで初開催されるラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>日本大会の復興のシンボルとして、そして将来を担う子どもたちに夢と希望と勇気を与えるため、2015 年 3 月に開催都市に選ばれる。国内12の開催都市の中で、唯一スタジアム会場を持たなかった釜石市は、東日本大震災からの復興を目指して『釜石鵜住居復興スタジアム』を新たに整備した。



19年のラグビー・ワールドカップ日本大会開催に備えて計画

2011 年の東日本大震災の被害を受け、小中学校跡地に建設された釜石鵜住居復興スタジアムは、釜石市の防災の考え方を広く発信しながら震災の記憶と防災の知恵を伝える。



「復興釜石新聞2019/08/06」ラグビーワールドカップ日本大会の前哨戦の初戦の様子

■うのすまい・トモス

うのすまい・トモスは、「東日本大震災の記憶や教訓を将来に伝えるとともに、生きることの大切さや素晴らしさを感じられ、憩い親しめる場」として、複数の公共施設を一体的に配置し、地域活動や観光交流を促進する鵜住居駅前エリア。



◀配置図

■いのちをつなぐ未来館  
（震災伝承と防災学習のための施設）

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する施設。



▲外観



▲内観

■鵜の郷交流館  
（観光交流拠点施設）

地域の魅力発信やにぎわいを創出し、観光交流を推進する拠点施設。「汐折 〜しおり〜」は漁協直営の食事処と産直コーナー。



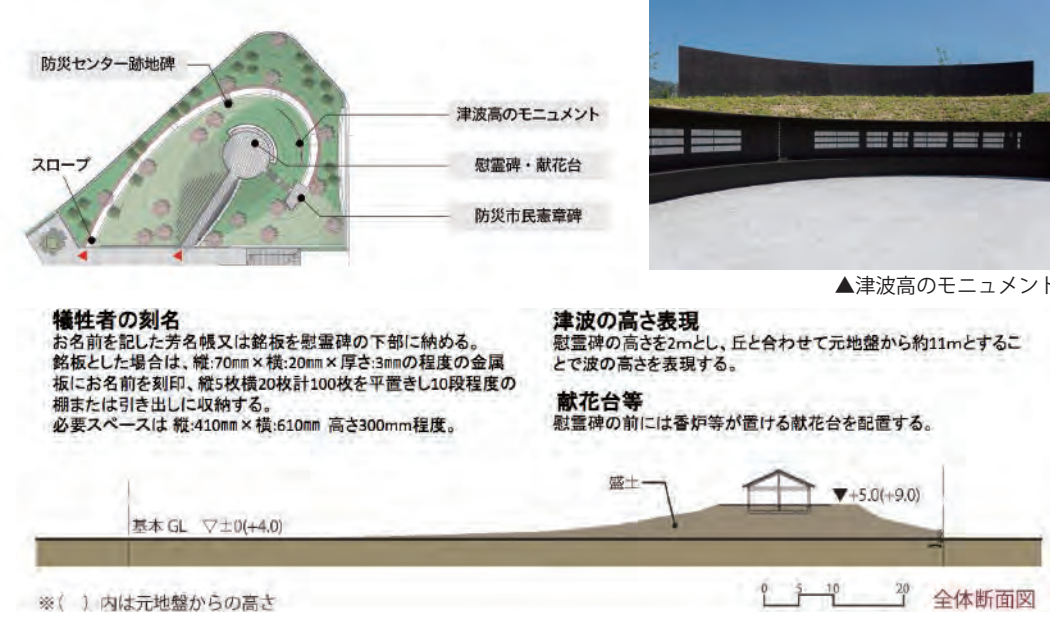
▲外観



▲内観

■釜石祈りのパーク（東日本大震災犠牲者慰霊追悼施設）

東日本大震災の犠牲者を慰霊、追悼するとともに、震災の教訓を後世に伝える施設「津波高のモニュメント」震災の記憶を後世に伝えるため、鵜住居駅前地区における津波浸水高（海抜11m）を表すモニュメント。



▲津波高のモニュメント

**犠牲者の刻名**  
お名前を記した芳名帳又は銘板を慰霊碑の下部に納める。  
銘板とした場合は、縦:70mm×横:20mm×厚さ:3mmの程度の金属板にお名前を刻印、縦5枚横20枚計100枚を平置きし10段程度の棚または引き出しに収納する。  
必要スペースは 縦:410mm×横:610mm 高さ300mm程度。

**津波の高さ表現**  
慰霊碑の高さを2mとし、丘と合わせて元地盤から約11mとすることで波の高さを表現する。

**献花台等**  
慰霊碑の前には香炉等が置ける献花台を配置する。



※( ) 内は元地盤からの高さ



### 3-2. 公園整備事例

防潮堤の整備にあたり設置が考えられるものを用途で分類し事例調査を行った。多目的広場に設置する遊具、モニュメント、ベンチ、東屋を取り上げる。吉田町の環境に適した防潮堤の傾斜に植栽する樹木を分析する。また、シーガーデンエリアで可能なイベントを全国の事例をまとめた。

#### 3-2-1 遊具 / モニュメント

第 2 章の調査から吉田町の特徴である景観、風、防潮堤それぞれに対応したモニュメントと遊具を分類した。景観に対する設置物は魅力的な景観ポイントに誘導することができる。強い風が吹く吉田町では風による動きを見せることで新たな景観の一つになる。防潮堤の斜面は幅が 10m、高さ 5m あるため設置物を置くことで有効に場所を使うことができる。資料 15 参照。

#### 3-2-2 ベンチ / 東屋













日光や雨、風を防ぐ休憩設備であるベンチ、東屋、テント、パーゴラの調査を行う。計画地は日照時間が長くエリアも広大なためベンチを含む東屋の設置が考えられる。また、風を見せるためテント生地の使用も検討する。資料 16 参照。

#### 3-2-3 植栽

樹木の中でも吉田町の新たな産業の可能性として果樹苗を調査し、吉田町海岸の環境条件に適した樹木を検討する。条件として海の潮風、強風をクリアする必要がある。資料 17 参照。本計画では可能性の高い果実苗として比較的風の弱い時期に開花期と収穫期を迎えるオリーブをあげて計画を行う。海岸近くにあるオリーブの栽培事例を参考に吉田町でも植栽可能か検討を行う。調査から収穫体験や加工体験などのイベントが行われているため吉田町でも取り入れる方向で検討する。資料 18 参照。

#### 3-2-4 イベント

多目的広場の広い芝生のエリアで行うイベント、防潮堤の 1km 以上に続く直線のエリアを活かしたイベント、海岸の海に近い渚のエリアを活かしたイベントの事例を分類してまとめた。年間の集客を考慮して様々なイベントが行えるエリアを確保しながらの提案をする必要がある。資料 19 参照。

	景観	風	傾斜
モニュメント	 <p>静岡県牧之原市静岡空港 だいだらぼっち広場</p>	 <p>兵庫県三田市 風のミュージアム</p>	 <p>イースター島</p>
	 <p>石川県珠洲岬</p>	 <p>サンフランシスコ ランドール博物館</p>	 <p>神奈川県 相模湖イルミリオン</p>
遊具	 <p>三重県四日市市 四日市スポーツランド</p>	 <p>福岡県大野城市 大野城いこいの森中央公園</p>	 <p>大阪府泉南郡熊取町 永楽ゆめの森公園</p>
	 <p>愛知県日間賀島</p>	 <p>バルセロナ Forum Playground</p>	 <p>ヴァルトキルヒエン Playgroung in Waldkirchen</p>



資料17 果樹一覧

イチジク



関東地方北部以北では庭植えでの栽培は難しい。また、カミキリムシの被害が多く、ただ植えておくだけでは枯れることが多いため、防除が必要である。熟果は雨に弱く、また鳥害を受けやすいので注意が必要である。果実は生食のほか、ジャムにも適している。

樹高	2～5m	収穫期	6月下旬～8月上旬 8月中旬～10月中旬
耐寒性	やや弱い	耐暑性	強い

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
収穫期												
植え替え												
肥料（鉢植え）												
肥料（庭植え）												
剪定												

キンカン類



キンカン類は耐寒性が強く、栽培も容易で庭木向きである。特にネイハキンカンは果実にビタミンA，Cが豊富で利用価値が高い。果実は甘露煮などに利用されますが、生果で食べてもおいしい。庭植えのキンカンは、一般の柑橘類より開花が遅いので、熟すのも遅く、早く食べると酸味が強いいため、3月から5月ごろが食べごろ。

樹高	2m以上	収穫期	2月上旬～5月中旬
耐寒性	普通	耐暑性	強い

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花期												
収穫期												
植えつけ、植え替え												
肥料（庭植え）												
肥料（鉢植え）												
剪定												

ヤマモモ



光沢のある常緑の葉で、庭木、街路樹などによく利用され、樹形が観賞される。雌雄異株で、4月に、小さく目立たない花を咲かせる。雌木には初夏に暗紅紫色のやや松脂臭のある果実がなる。果実は生食のほか煮物、ジャム、砂糖漬けなどさまざまに利用できる。生食用には日もちが悪いためあまり市場には流通しない。

樹高	15m	収穫期	4月
耐寒性	やや弱い	耐暑性	強い

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花期												
植えつけ												
植え替え												
肥料（鉢植え）												
肥料（庭植え）												
剪定												

びわ



ビワは無農薬でつくれる家庭向きの果樹。育成を放置していると背が高くなりますが、整枝で低くつくることもできる。栽培にあたっては、耐寒性を考慮する必要がある。幼果期に－3℃以下の低温に遭遇すると、胚珠が死滅し落果する。したがって、最低気温が－2℃以下になる地域での栽培は厳しい。

樹高	2～5m	収穫期	6月
耐寒性	やや弱い	耐暑性	強い

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
収穫期												
植えつけ、植え替え												
肥料（鉢植え）												
肥料（庭植え）												
剪定												

ユズ類



ユズ類として、レモンやダイダイなどを除く、ユズやスダチ、カボス、シークワサーなどの調理用の柑橘類。柑橘類のなかではとくに耐寒性が強く、広い地域で栽培が可能である。栽培も容易である。柑橘類は致命的な病害虫がなくて育てやすく、温暖化で栽培可能地域も広がっている注目の果樹。

樹高	1.5m以上	収穫期	9月上旬～12月下旬
耐寒性	普通	耐暑性	強い

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花期												
収穫期												
植えつけ、植え替え												
肥料（庭植え）												
肥料（鉢植え）												
剪定												

オリーブ



果実は苦くて生食はできないため、塩漬けやいわゆるバージンオイルに加工される。一般に、果実の大きいものは含油率が低く塩蔵用に向き、果実の小さいものは含油率が高くオイル用に向きである。木は乾燥に強く、樹勢が強く大木になるため、整枝や剪定の心得がなければ、結実しない。

樹高	2m以上	収穫期	10月下旬～11中旬
耐寒性	普通	耐暑性	強い

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花期												
収穫期												
植えつけ、植え替え												
肥料（鉢植え）												
肥料（庭植え）												
剪定												

出典：育て方図鑑 | みんなの趣味の園芸 NHK出版



## 4-1 計画構想案

現在、吉田町ではシーガーデンを津波防災まちづくりと賑わいまちづくりが一体化した新たな賑わいの創出するシーガーデンシティ構想の最も重要なポイントに位置づけられて取り組みを行っている。第2,3章の調査結果と吉田町シーガーデンシティ構想推進委員会の協議を踏まえ、吉田町全体とシーガーデンエリアの構想案を提案する。

### 4-1-1 吉田町全体計画

「空港ティーガーデンシティ構想」で示されている富士山静岡空港や東名高速道路吉田 I.C.から沿岸部を結ぶ海の道を活用する。観光地である小山城や防災拠点である北オアシスパークを含めた南北の軸線に公共施設を新たに加えて計画する。吉田 I.C.から海岸までの南北の軸線と計画エリアであるシーガーデンの東西の軸線を合わせて町全体の人の流れを創出する。提案1参照。

### 4-1-2 シーガーデン景観計画

富士山静岡空港に着陸する飛行機の空路であるシーガーデンをナスカの地上絵のように上空から認識できるようエリアを構成する。「シーガーデンシティ構想推進計画」より、多目的広場を水産振興ゾーン、防潮堤を海辺のプロムナードゾーン、大井川エリアをレジャーとスポーツゾーンとして活用を検討する。陸側からの利用者に対して各エリアに適する機能を持たせることで利用者の流れを喚起し、賑わいの創出を提案する。提案2参照。



4-1-1 吉田町全体計画図





## 4-2 シーガーデン各エリア計画

シーガーデンに新たに整備されるエリアとして吉田漁港を含む多目的広場エリアと川尻海岸沿いの防潮堤エリアと県営吉田公園に接する大井川エリアの計画を提案する。

### 4-2-1 多目的広場計画

多目的広場は駿河湾に面しており、湾景観だけでなく富士山や御前崎、石廊崎といった対岸の優れた海側景観と海岸線の内側に位置する吉田漁港を中心とした小山城を含めた街並みの陸側眺望景観を持つ。以上の眺望の軸線を取り入れながら展望スペースや展望台を提案する。また、駐車場や遊具、休憩スペースなどの公園機能を計画し、将来的な住吉海岸の防潮堤整備を想定した防潮堤をつなぐ可動橋も合わせて提案する。提案 3,4,5 参照。

### 4-2-2 防潮堤計画

全長 1.5km、天端幅 8m の防潮堤は他地域の防潮堤と比較して人の目線があり、安心・安全なエリアである。湯日川の橋を超えた防潮堤に風の動きが見られる展望台を設置することでゲートの役割を果たす。防潮堤の直線性を活かしてサイクリング可能なスロープによる動線を新たに提案する。スロープ位置を八幡津島神社の延長線上に設置し、新年の鳥居の設置のための動線も確保する。長い距離と傾斜を利用したオリーブの栽培を東側のスロープ周辺に提案する。傾斜の植栽のため樹冠が上の木の樹冠に浸食されないように上下の間隔を確保できる三角植えを行う。提案 6,7,8 参照。

### 4-2-3 大井川エリア計画

河川防災ステーションを含む大井川エリアは水面の表情や川の流れる音が楽しめる大井川と広大な湾景観を同時に見ることができる。ここに高さのある丘を計画することで吉田町の展望エリアとなるだけでなく、周囲からの景観の一つにもなる。50～60 種類の野鳥が見られる河川敷に野鳥観察小屋を計画し、バードウォッチングが可能な場所として、大井川と町の距離を近づけるエリアとして計画する。提案 9,10,11 参照。

提案3-1 多目的広場現況図

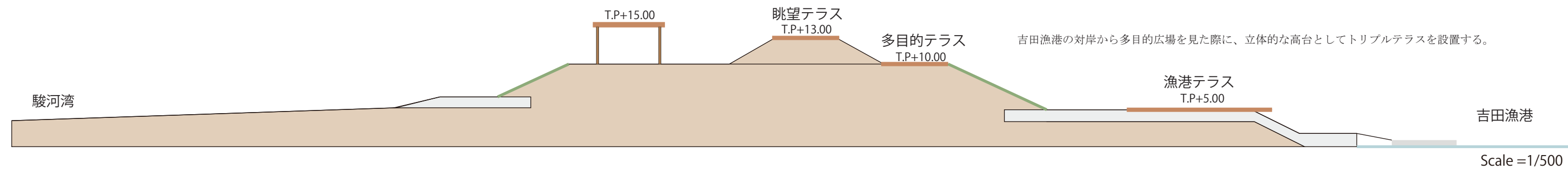


提案3-2 多目的広場計画図





提案4 展望テラス計画図

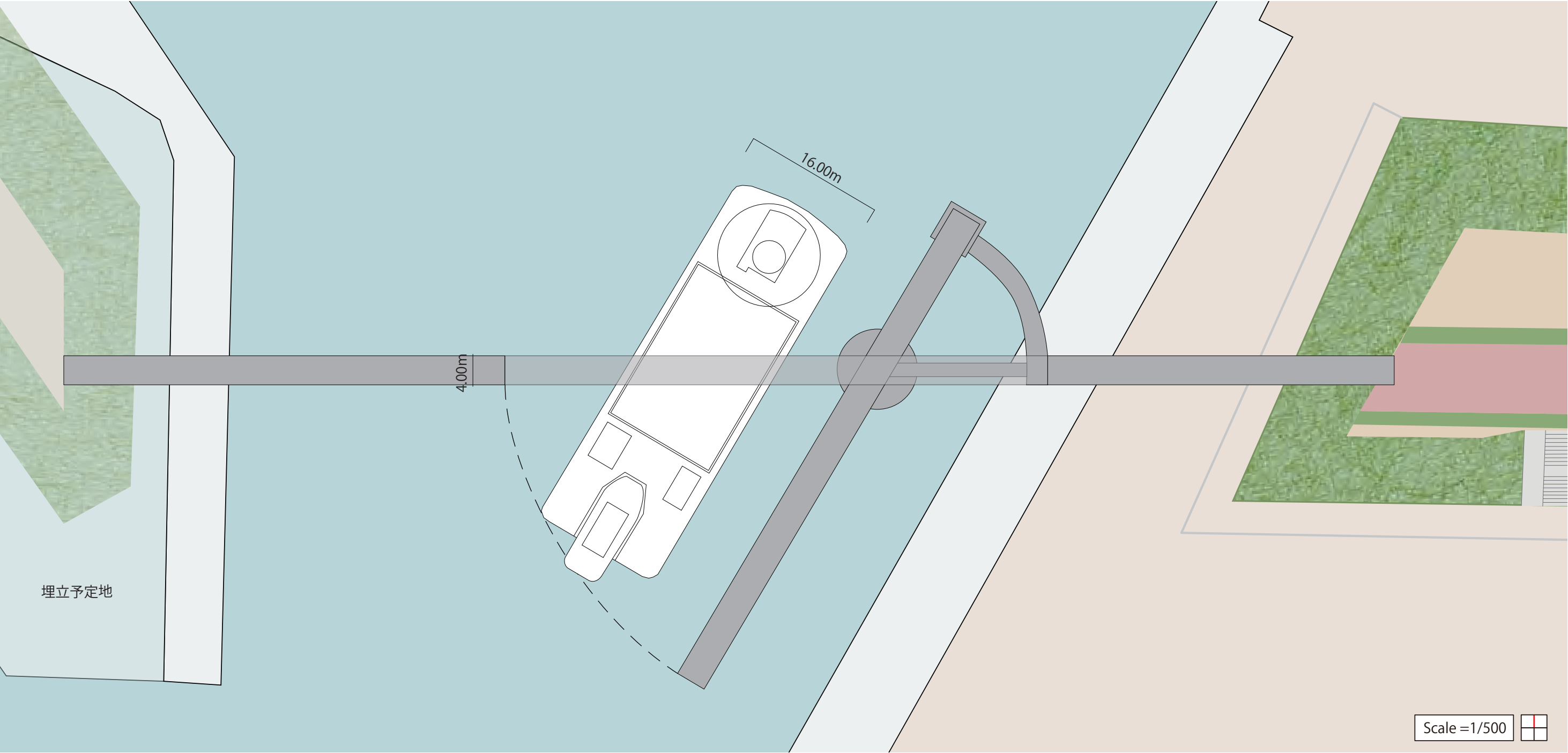
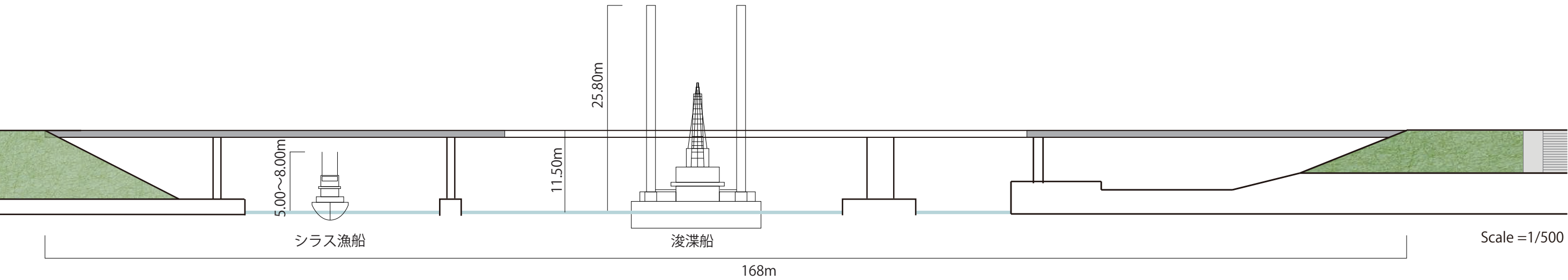


富士山展望テラス イメージ図



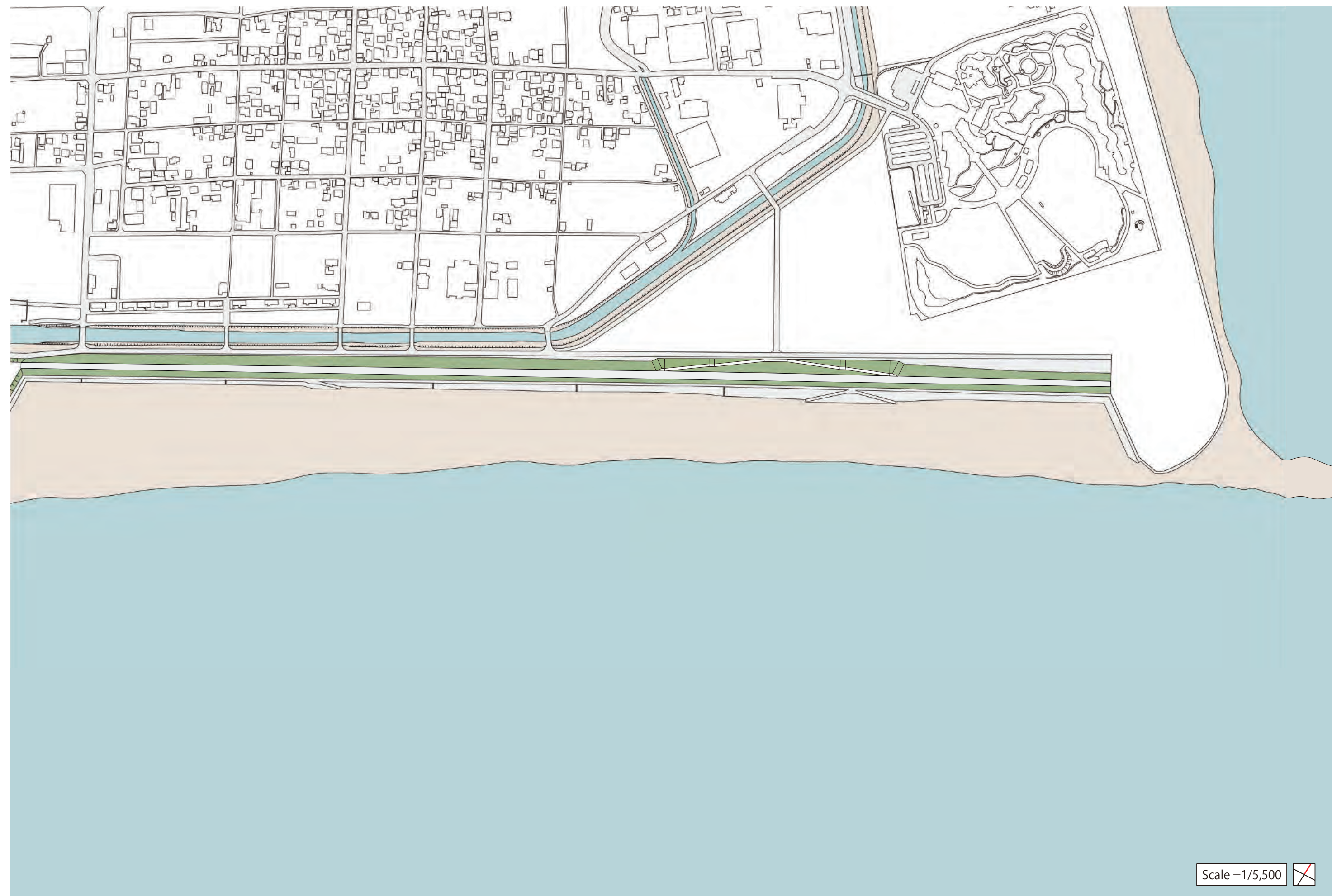
駿河湾展望デッキ イメージ図

提案5 吉田漁港可動橋計画図



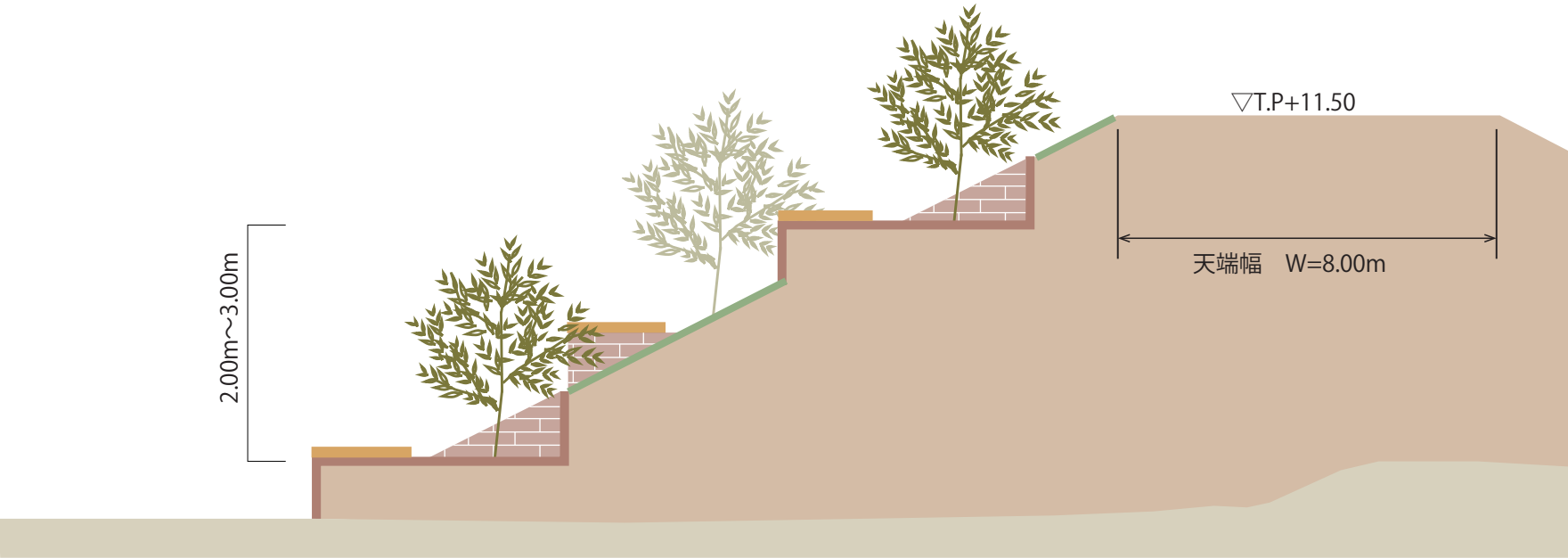
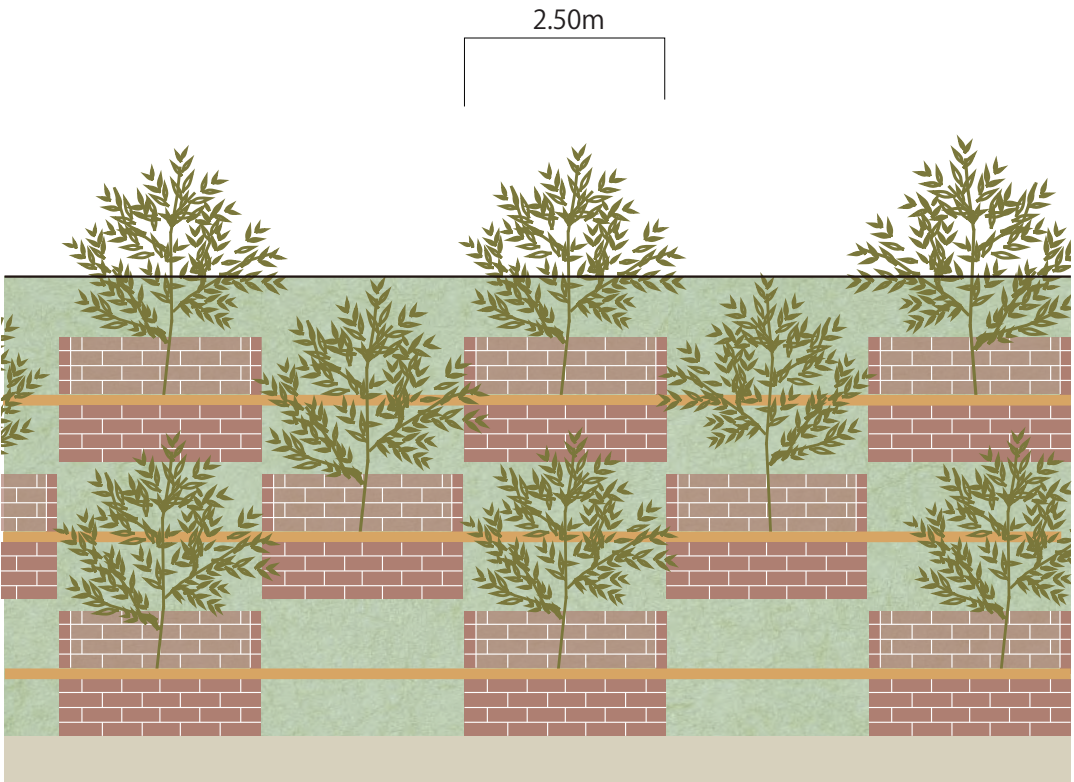
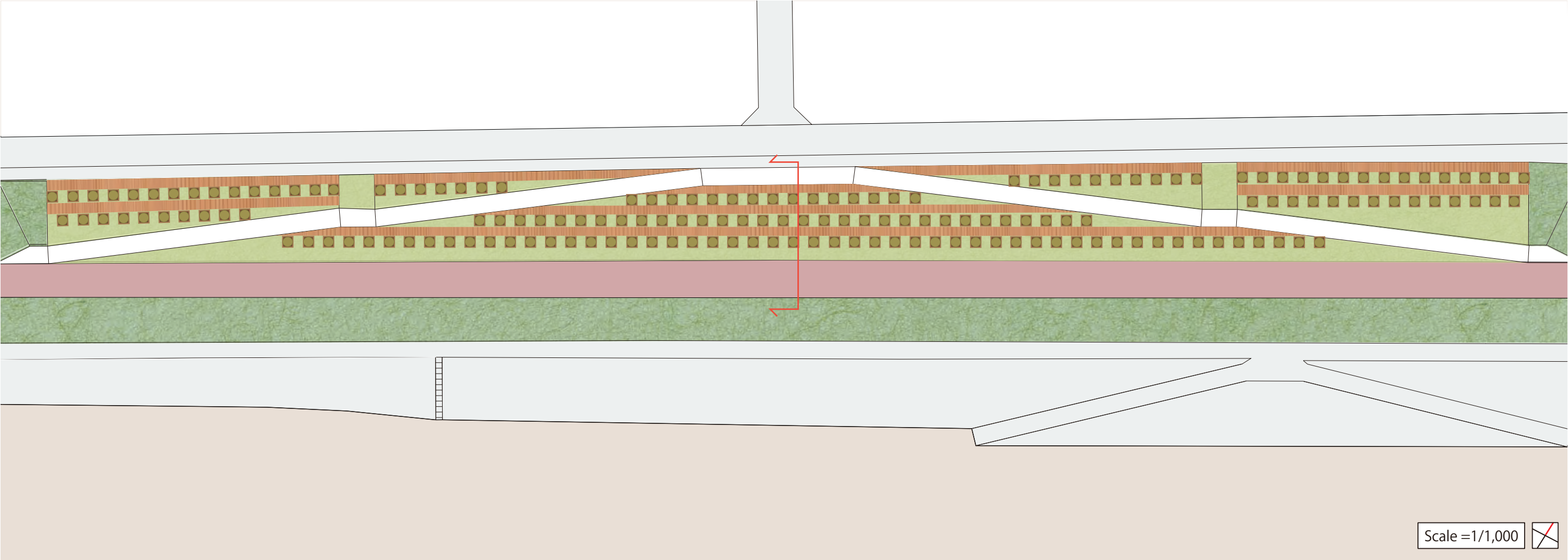


提案6-1 防潮堤現況図

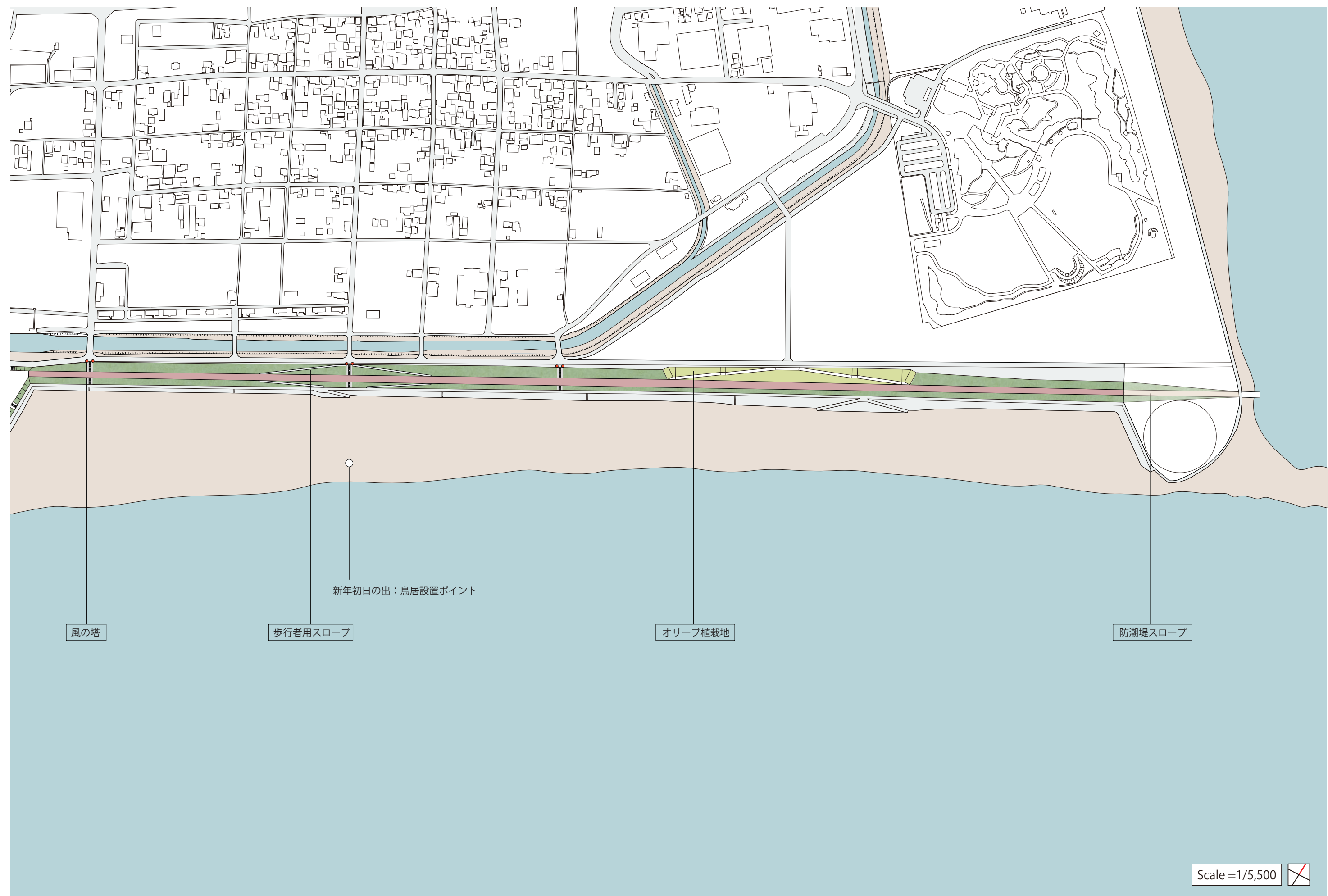




提案8 オリーブ植栽計画図

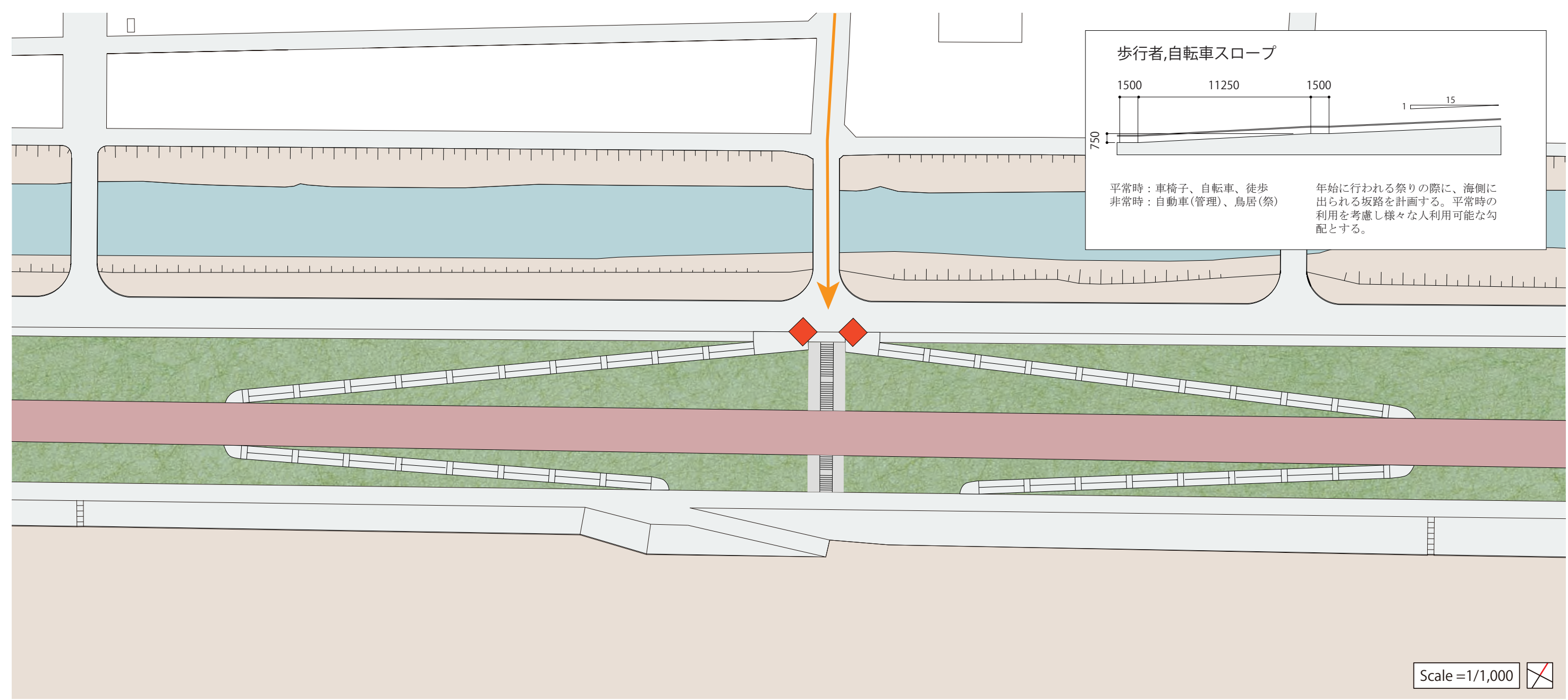


提案6-2 防潮堤計画図

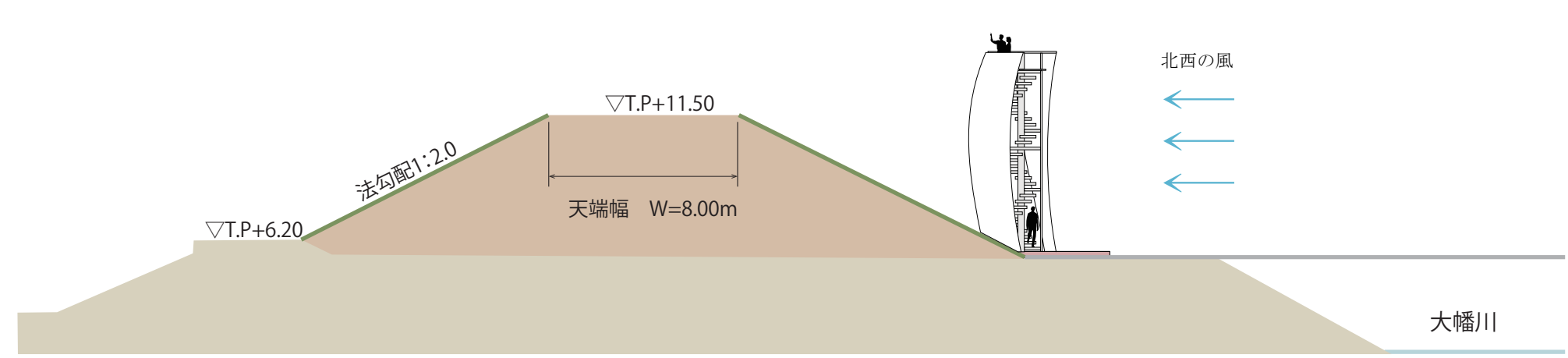




提案7 歩行者, 自転車スロープ/風のベンチ計画図



風のゲートイメージ

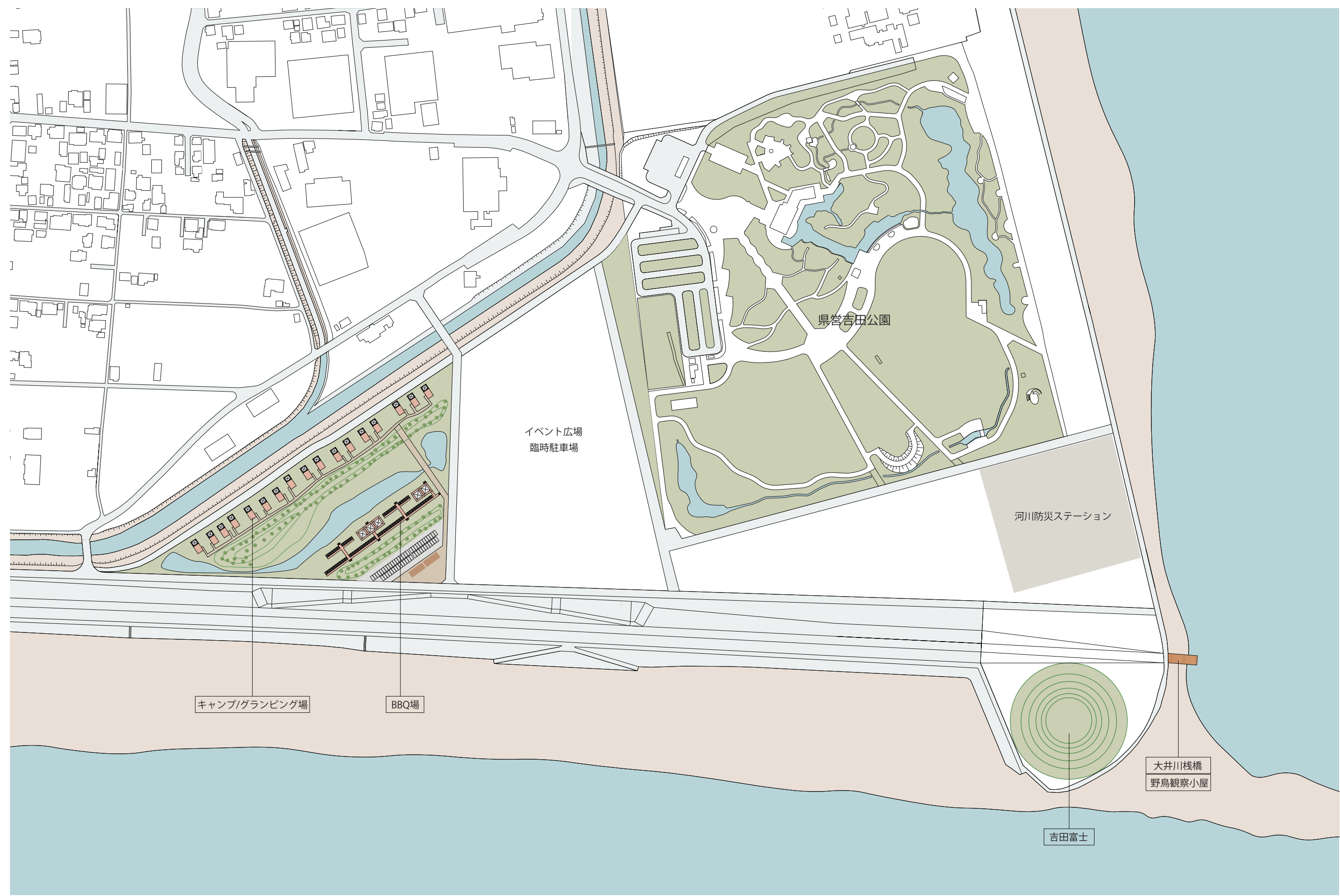


提案9-1 大井川エリア現況図

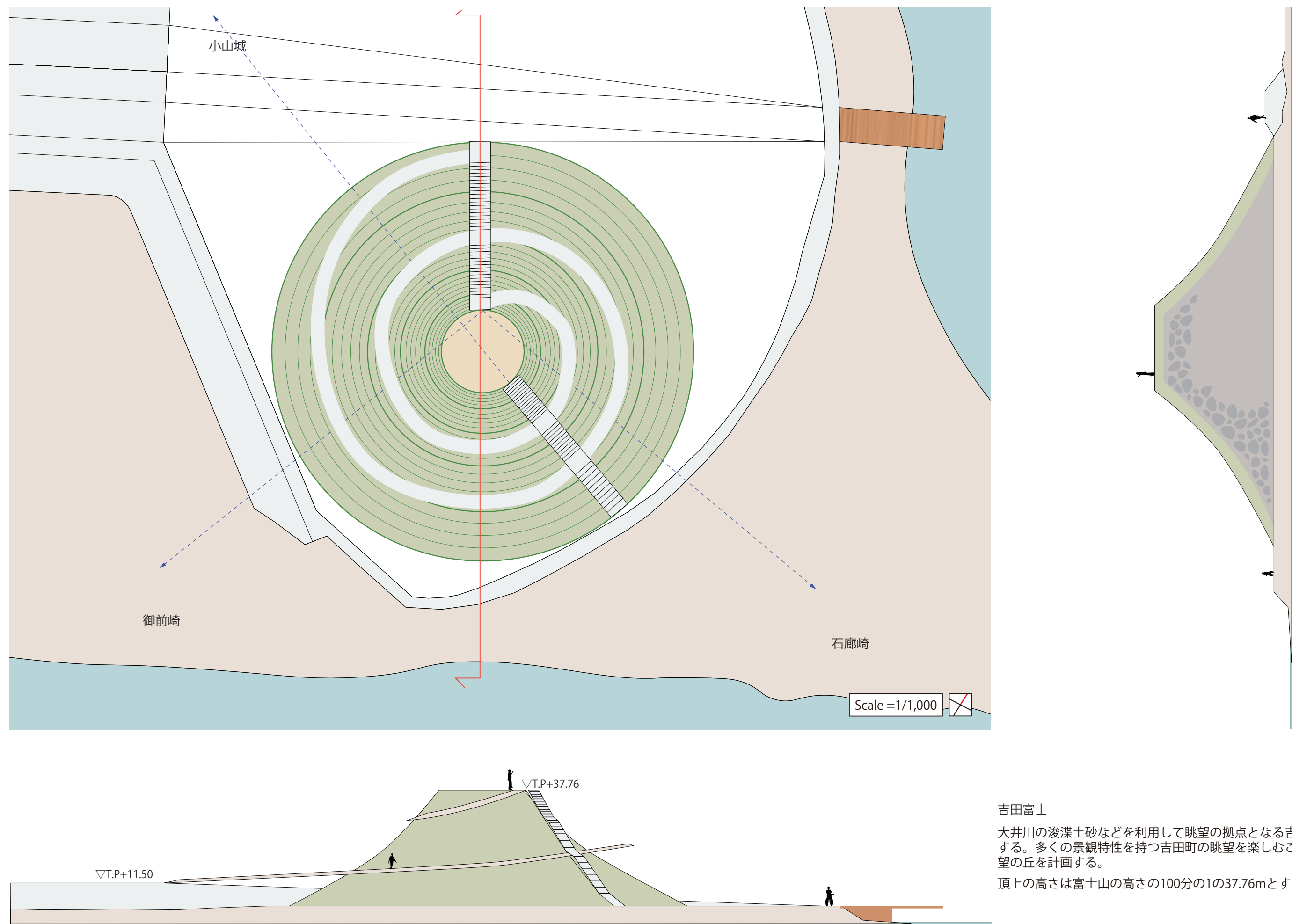




提案9-2 大井川エリア計画図



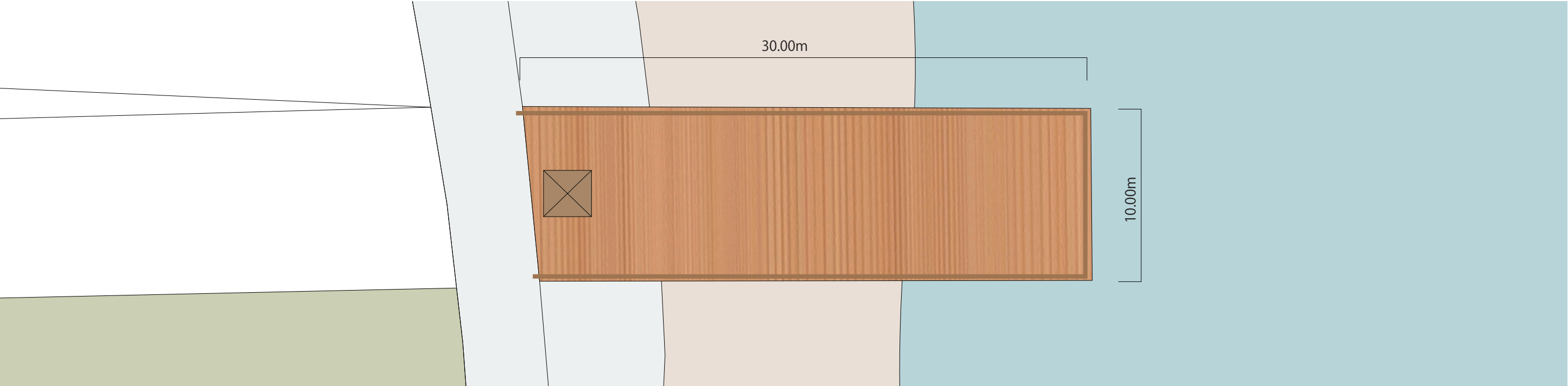
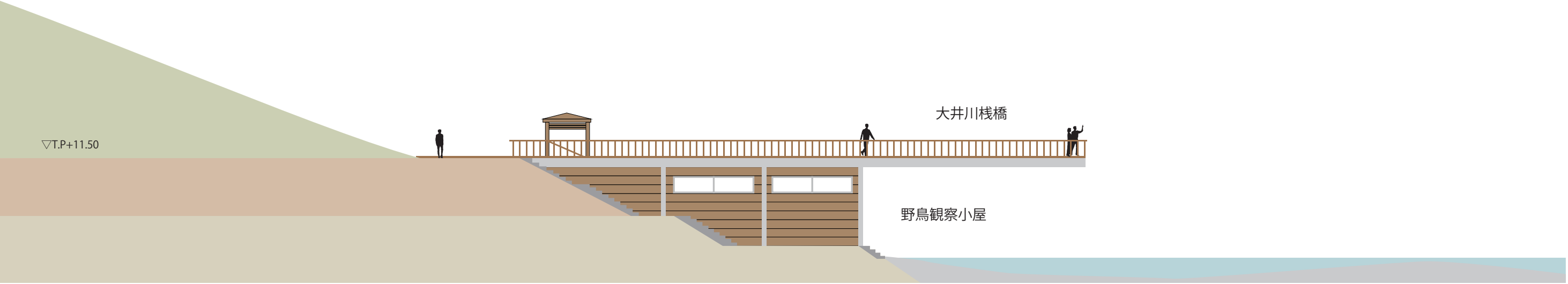
提案10 展望の丘(吉田富士)計画図



吉田富士  
大井川の浚渫土砂などを利用して眺望の拠点となる吉田富士を計画する。多くの景観特性を持つ吉田町の眺望を楽しむことのできる展望の丘を計画する。  
頂上の高さは富士山の高さの100分の1の37.76mとする。



提案11 野鳥観察小屋/棧橋計画図



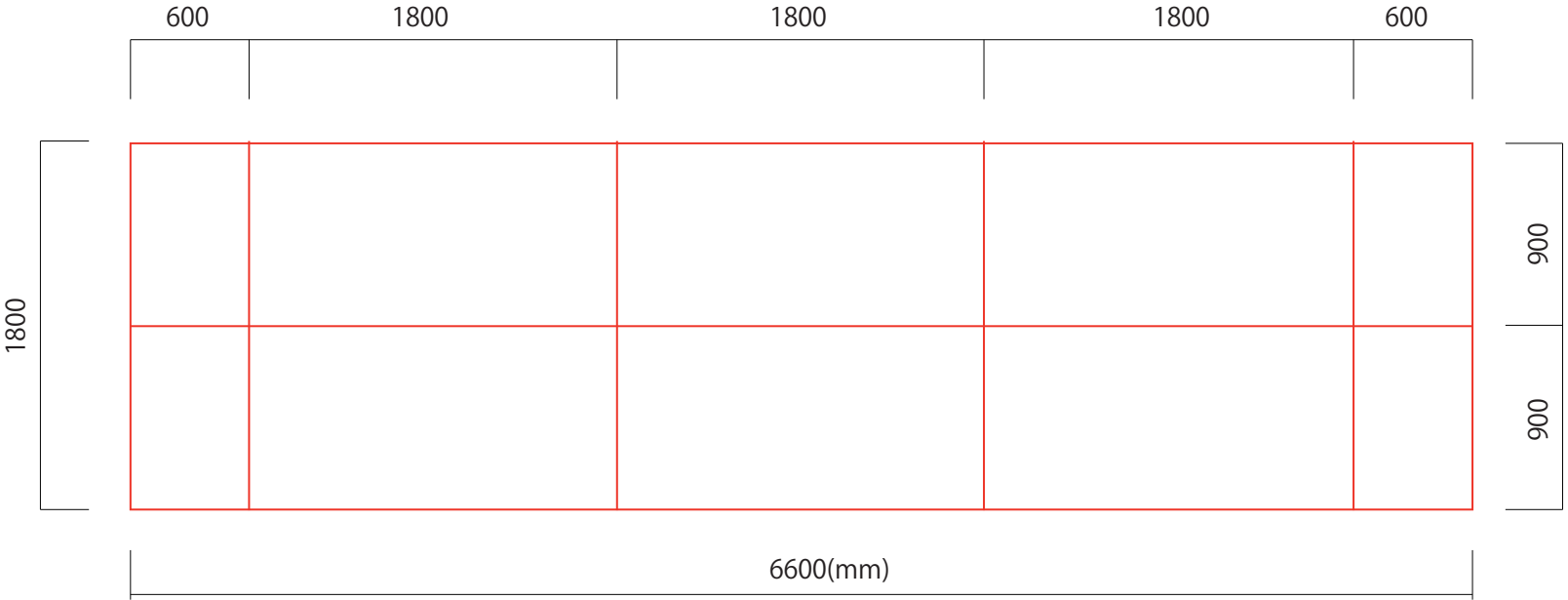
4-3 シーガーデンエリア全体模型写真



地図ベース：Google マップ  
Scale = 1/12,000

シーガーデンエリア全体模型  
(防潮堤は現在整備が行われている時点)

Scale:1/500  
サイズは左記の通り







シーガーデンエリア全体 正面



多目的広場 上面

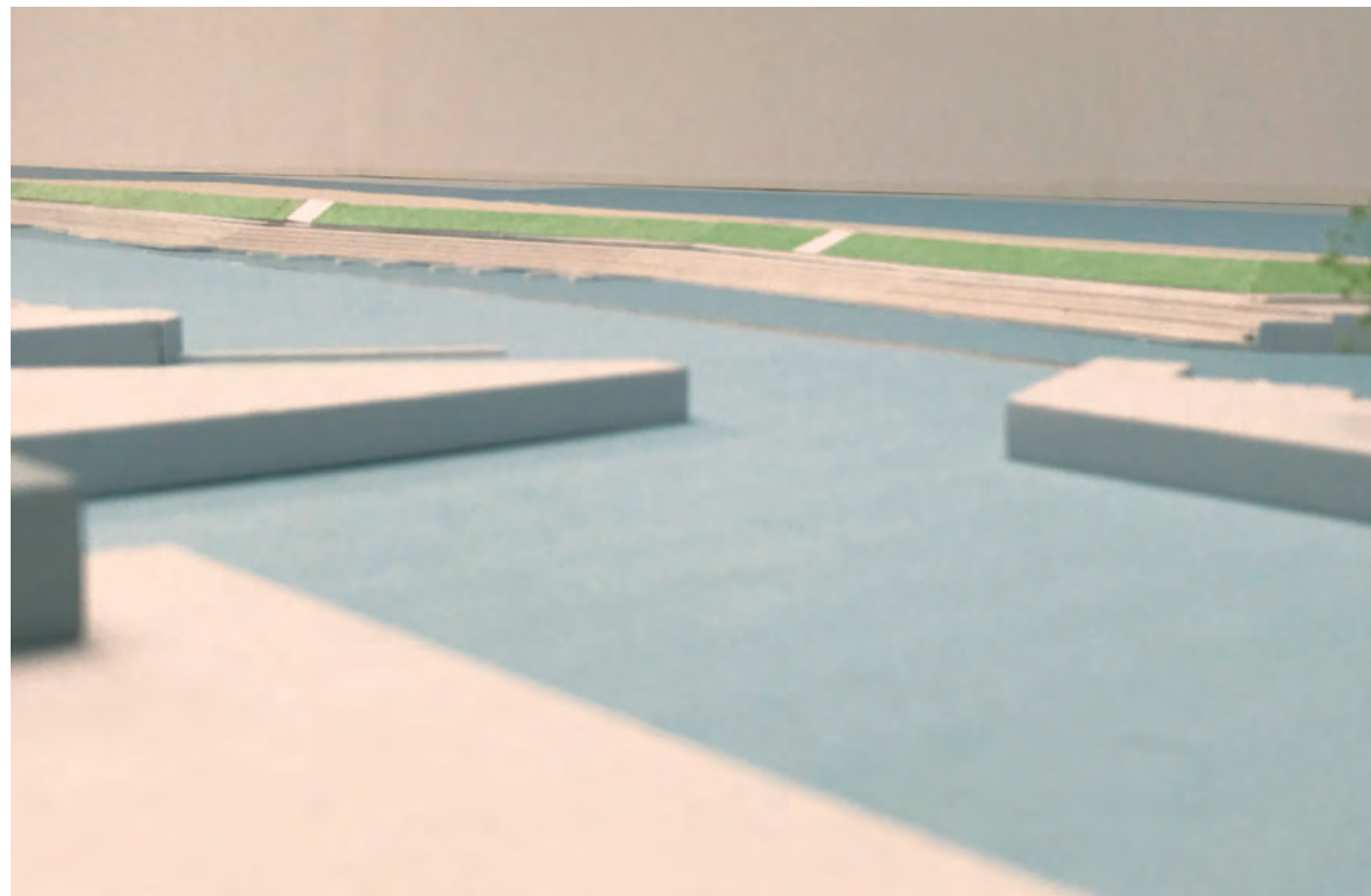


防潮堤 上面

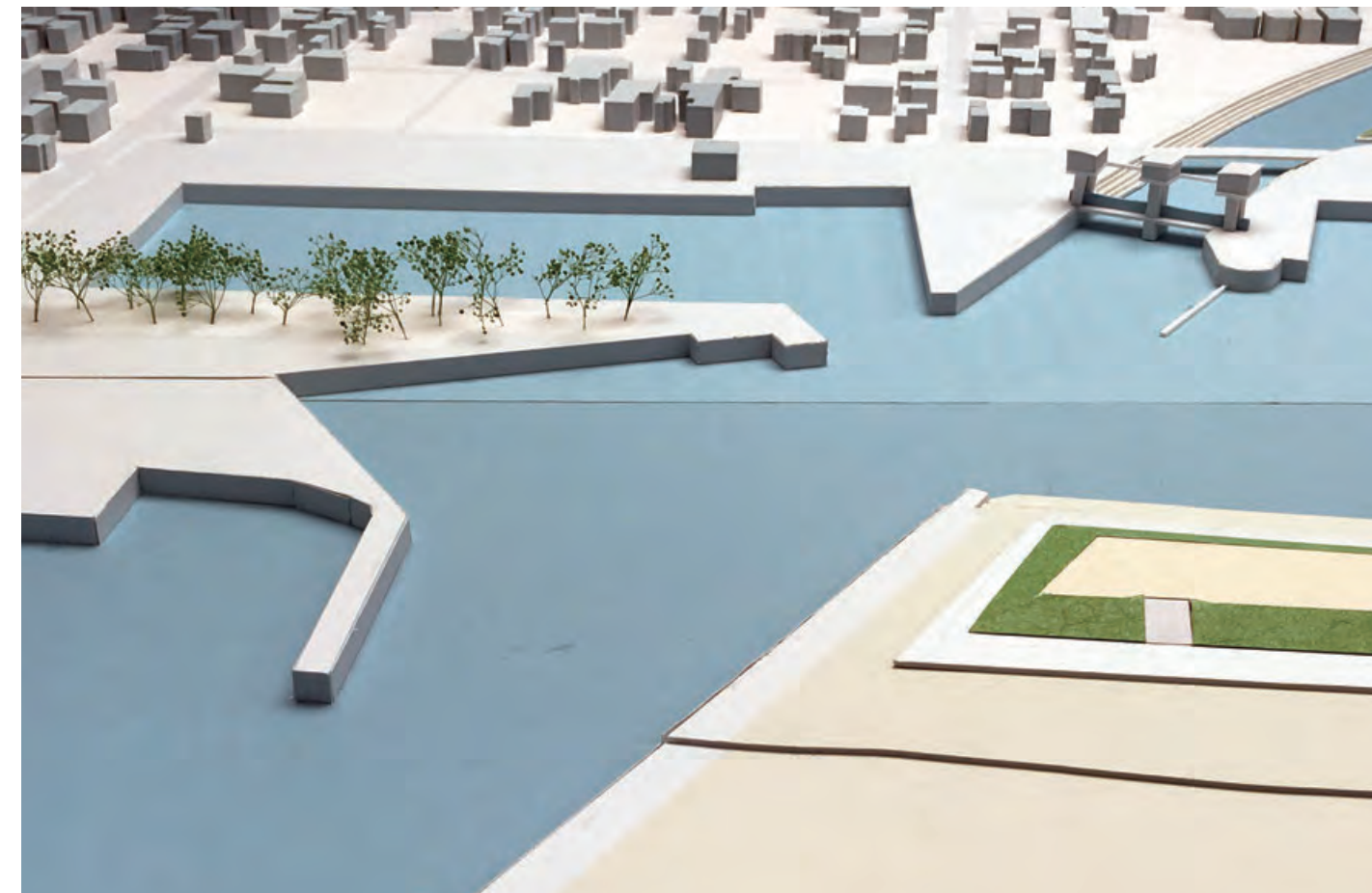


大井川エリア 上面

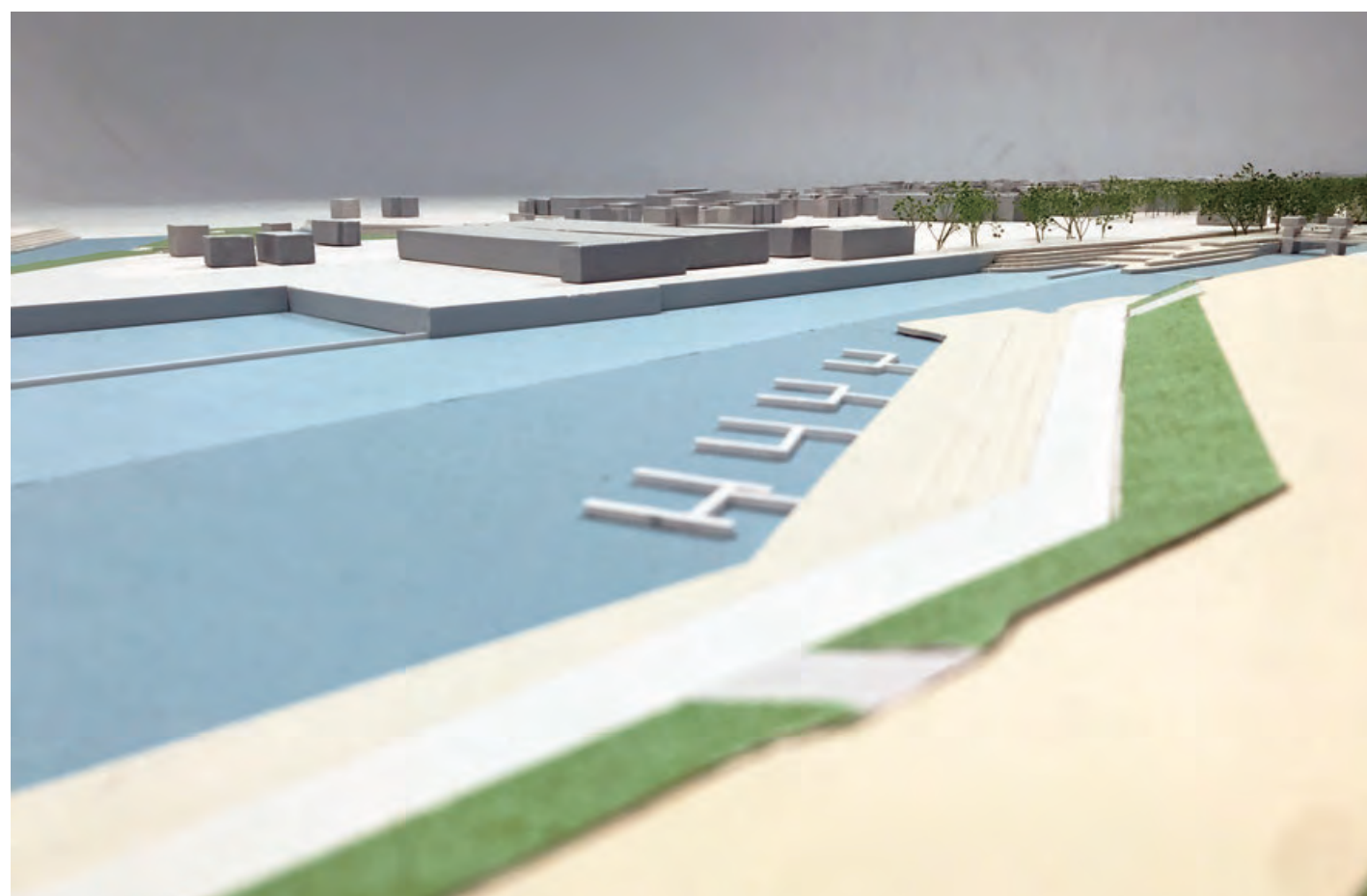




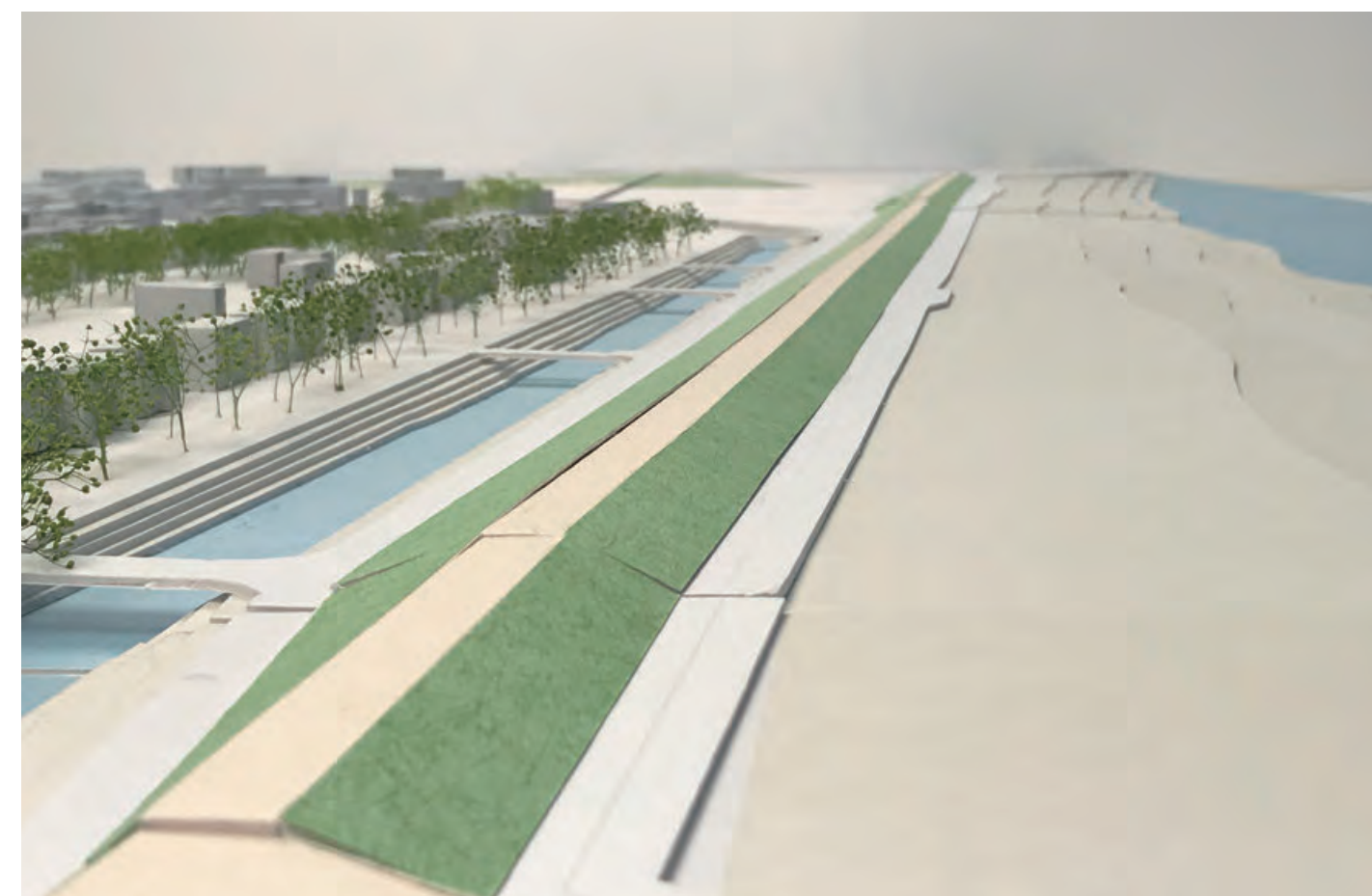
1.対岸からの多目的広場



2.吉田漁港 可動橋予定地



3.富士山展望テラスからの視線

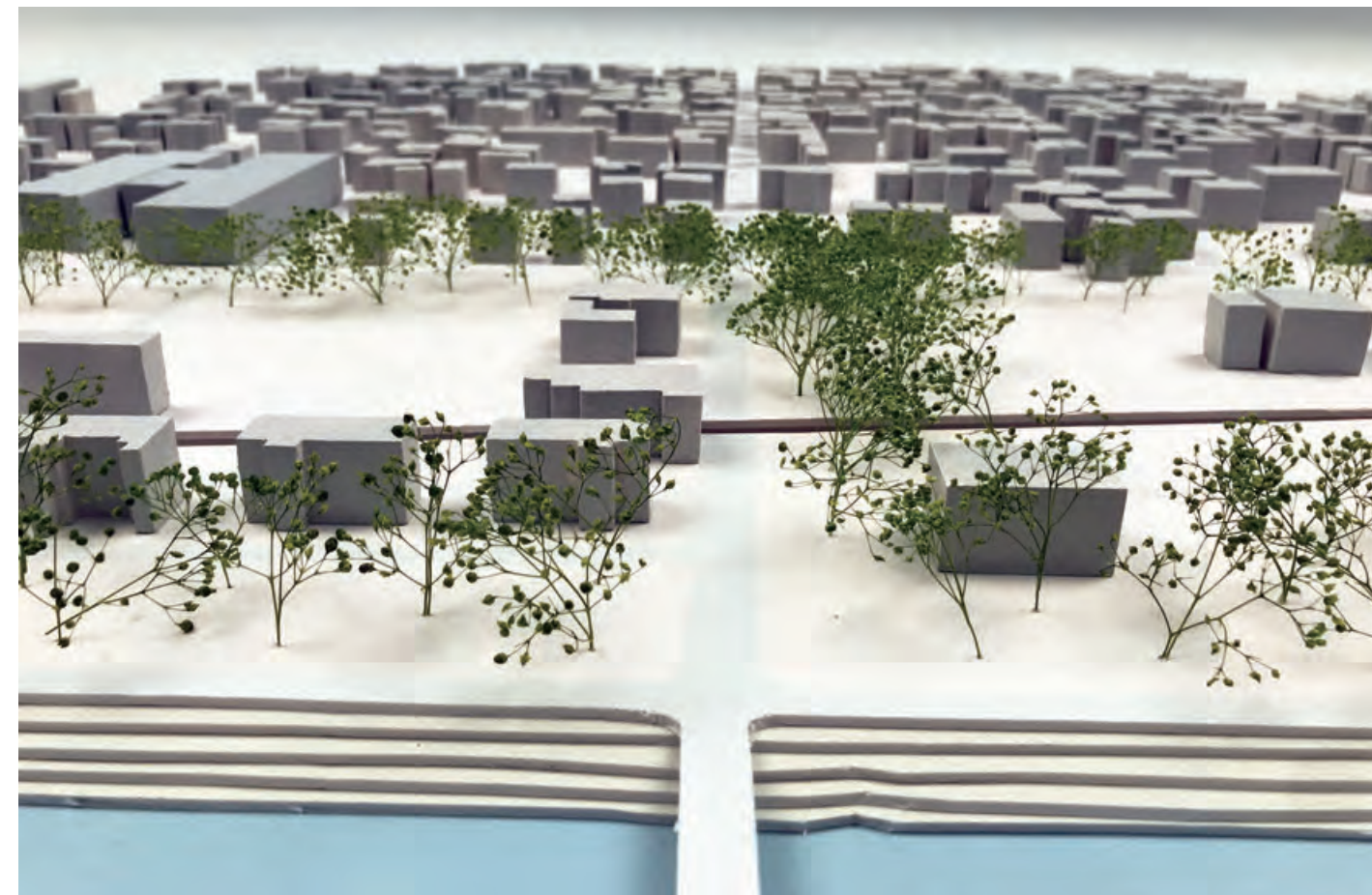


4.多目的広場からの防潮堤

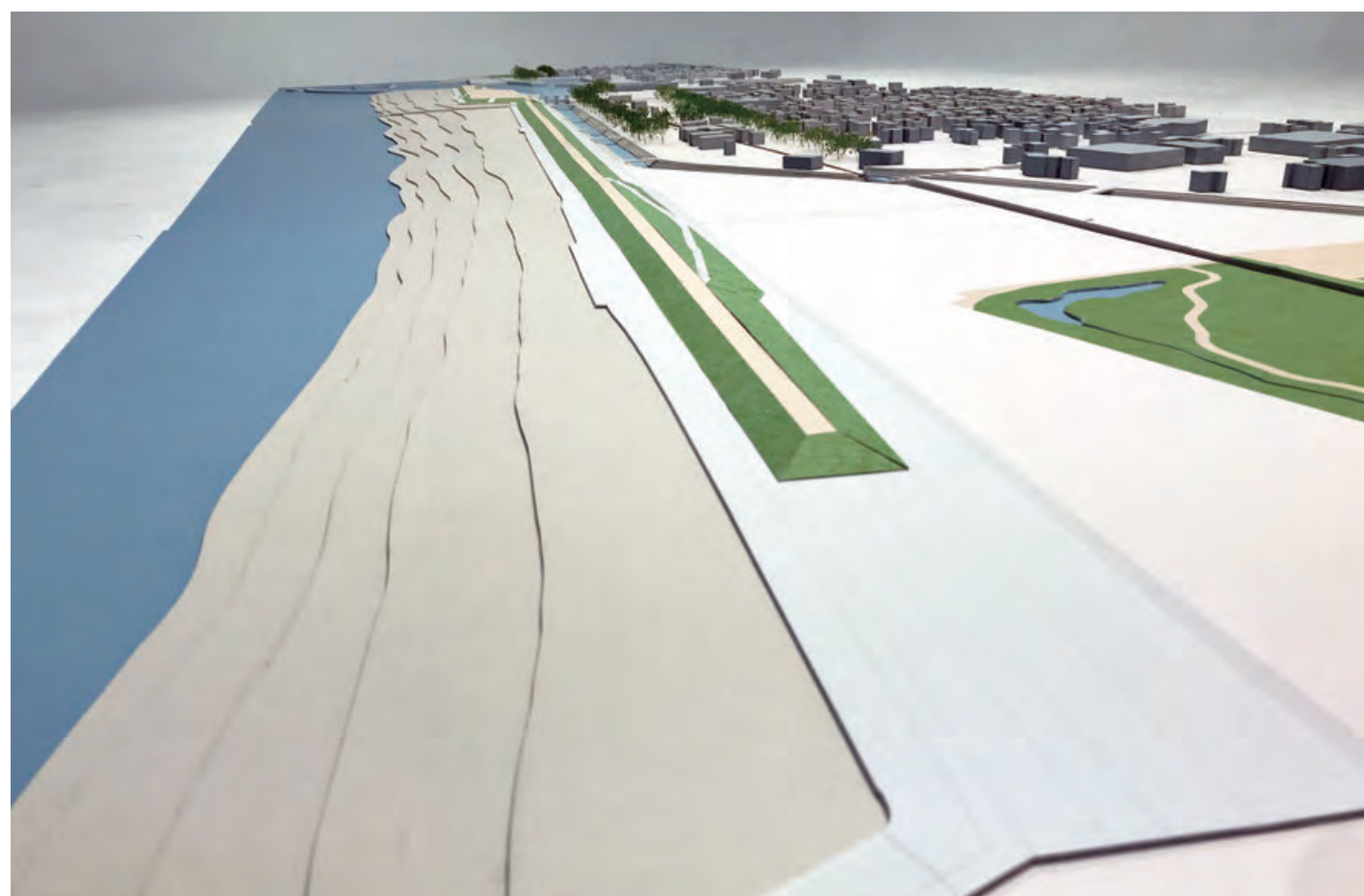




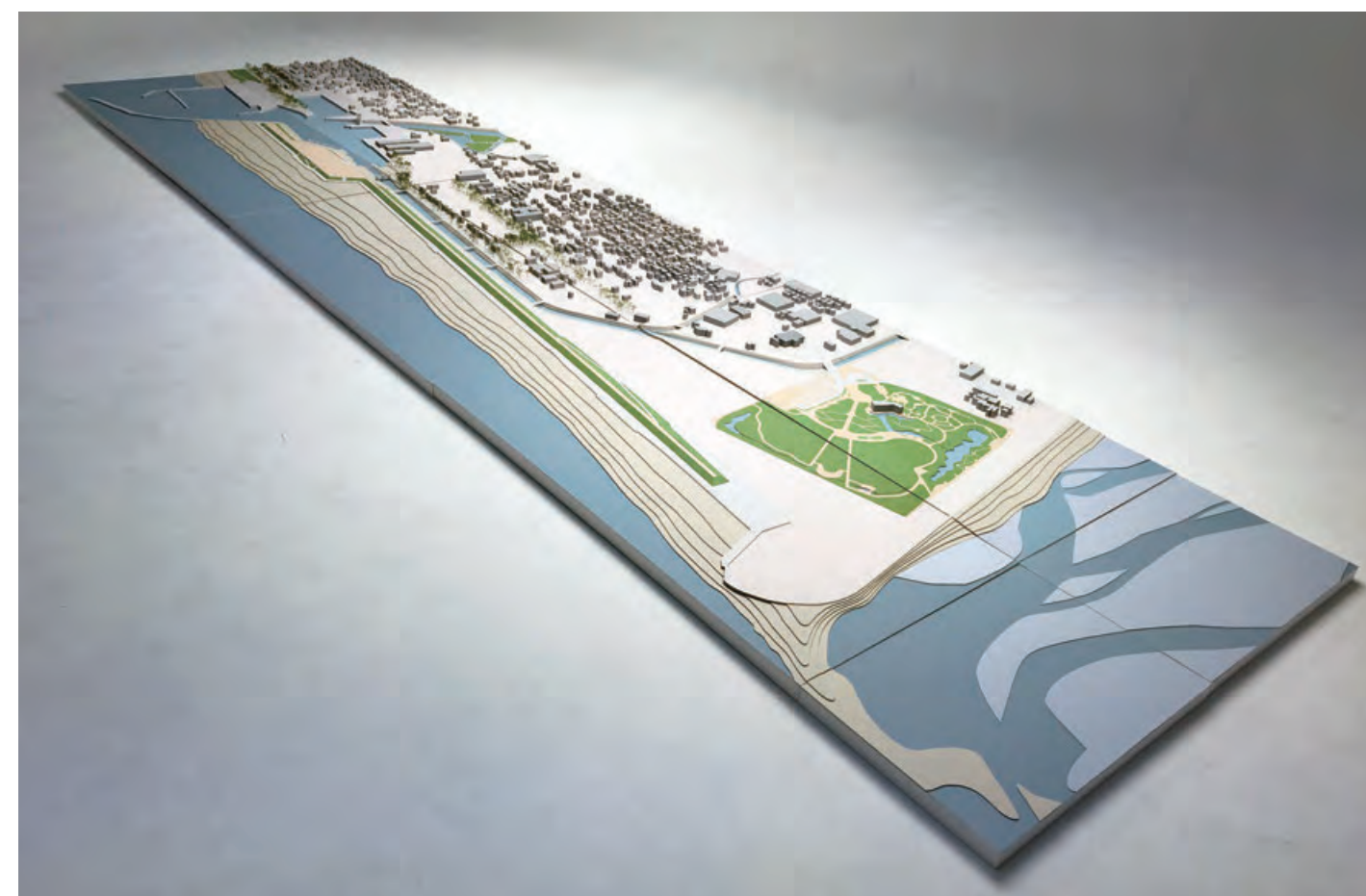
5.湯日川



6.シーガーデンエリア全体 正面



7.吉田富士からの防潮堤



8.南東上空より



4-4 シーガーデンエリア イメージ図





## 参考文献

- 1) 吉田町(2016)「第5次吉田町総合計画」
- 2) 吉田町(2016)「吉田町賑わい創出プラン～シーガーデンシティ構想～」
- 3) 吉田町(2017)「よしだものがかり」
- 4) 吉田町(2018)「吉田町のまちづくり」
- 5) 吉田町(2019)「シーガーデンシティ構想推進計画(案)」
- 6) 釜石市(2015)「釜石市震災メモリアルパーク整備基本計画(案)」
- 7) 釜石市(2016)「釜石鵜住居復興スタジアム(仮称)整備基本計画(案)」
- 8) 気仙沼市(2019)「復興祈念公園施設検討委員会 資料」
- 9) 岩手県(2015)「高田松原津波復興祈念公園基本計画」
- 10) 静岡県(2010)「空港ティーガーデンシティ構想」